

港湾工事出来形管理基準

凡 例

特 : 図面及び特記仕様書

共 ; 港湾工事共通仕様書

業務共通仕様書 ; 港湾設計・測量・
調査等業務共通仕様書

港湾工事出来形管理基準
目 次

1. 共通の工種		5-3 中詰工	19
1-1 浚渫土工	1	5-4 蓋コンクリート工	19
1-2 圧密・排水工	1	5-5 蓋ブロック工	19
1-3 締固工	3	6. 本体工 (ブロック式)	
1-4 固化工	4	6-1 本体ブロック製作工	19
1-5 洗掘防止工	5	6-2 本体ブロック据付工	20
1-6 中詰工	5	6-3 中詰工	20
1-7 蓋コンクリート工	5	6-4 蓋コンクリート工	20
1-8 蓋ブロック工	5	6-5 蓋ブロック工	20
1-9 鋼矢板工	6	7. 本体工 (場所打式)	
1-10 控 工	7	7-1 場所打コンクリート工	21
1-11 鋼杭工	9	7-2 水中コンクリート工	21
1-12 コンクリート杭工	9	7-3 プレパックドコンクリート工	21
1-13 防食工	10	7-4 水中不分離性コンクリート工	22
1-14 コンクリート舗装工	11	8. 本体工 (捨石・捨ブロック式)	
1-15 アスファルト舗装工	12	8-1 洗掘防止工	22
1-16 植生工	13	8-2 本体捨石工	22
2. 土捨工		8-3 捨ブロック工	22
2-1 浚渫土工	14	8-4 場所打コンクリート工	23
3. 海上地盤改良工		9. 本体工 (鋼矢板式)	
3-1 床掘工	14	9-1 鋼矢板工	23
3-2 床掘土工	14	9-2 控 工	23
3-3 置換工	14	10. 本体工 (コンクリート矢板式)	
3-4 圧密・排水工	15	10-1 コンクリート矢板工	24
3-5 締固工	15	10-2 控 工	24
3-6 固化工	15	11. 本体工 (鋼杭式)	
4. 基礎工		11-1 鋼杭工	24
4-1 基礎盛砂工	15	12. 本体工 (コンクリート杭式)	
4-2 洗掘防止工	15	12-1 コンクリート杭工	24
4-3 基礎捨石工	16	13. 被覆・根固工	
4-4 基礎ブロック工	17	13-1 被覆石工	25
5. 本体工 (ケーソン式)		13-2 被覆ブロック工	25
5-1 ケーソン製作工	18	13-3 根固ブロック工	25
5-2 ケーソン進水据付工	18		

14. 上部工		23. 仮設工	
14-1 上部コンクリート工	26	23-1 仮設鋼矢板工	34
14-2 上部ブロック工	27	23-2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工	34
15. 付属工		23-3 仮設道路工	34
15-1 係船柱工	28	24. 雑工	
15-2 防舷材工	28	24-1 現場鋼材溶接工	34
15-3 車止・縁金物工	28	24-2 現場鋼材切断工	35
15-4 防食工	29	24-3 その他雑工	35
15-5 付属設備工	29	25. 浚渫工	
16. 消波工		25-1 ポンプ浚渫工	35
16-1 洗掘防止工	29	25-2 グラブ浚渫工	35
16-2 消波ブロック工	29	25-3 硬土盤浚渫工	35
17. 裏込・裏埋工		25-4 岩盤浚渫工	36
17-1 裏込工	30	25-5 バックホウ浚渫工	36
17-2 裏埋工	30	25-6 浚渫土工	36
17-3 裏埋土工	30	26. 埋立工	
18. 陸上地盤改良工		26-1 固化工	36
18-1 圧密・排水工	31	26-2 埋立土工	36
18-2 締固工	31	27. 道路舗装工	
18-3 固化工	31	27-1 コンクリート舗装工	37
19. 土工		27-2 アスファルト舗装工	37
19-1 掘削工	31	27-3 道路付属工	37
19-2 盛土工	31	28. 緑地工	
19-3 路床盛土工	31	28-1 植生工	37
19-4 法面工	32		
20. 舗装工			
20-1 コンクリート舗装工	32		
20-2 アスファルト舗装工	32		
21. 維持補修工			
21-1 維持塗装工	32		
21-2 防食工	32		
22. 構造物撤去工			
22-1 取壊し工	33		
22-2 撤去工	33		

[参 考]

様式・出来形 1-1-1	；土砂掘削出来形管理表	38	様式・出来形 15-1-1	；係船柱出来形管理表	76
様式・出来形 1-2-2(1)	；敷砂出来形管理表	39	様式・出来形 15-2-1	；防舷材出来形管理表	77
様式・出来形 1-2-2(2)	；敷砂出来形管理図	40	様式・出来形 15-3-1	；車止出来形管理表	78
様式・出来形 1-3-2(1)	；サントコンパクションパイル出来形管理表	41	様式・出来形 24-1-1(1)	；すみ肉溶接出来形管理表	79
様式・出来形 1-3-2(2)	；砂投入管理表	42	様式・出来形 24-1-1(2)	；突合わせ溶接出来形管理表	80
様式・出来形 1-3-2(3)	；締固工深浅図	43	様式・出来形 24-1-1(3)	；鉄筋フレア溶接出来形管理表	81
様式・出来形 1-4-1(1)	；深層混合処理杭出来形管理表	44	様式・出来形 25-1(1)	；浚渫出来形管理表	82
様式・出来形 1-4-1(2)	；深層混合処理杭鉛直度管理表	45	様式・出来形 25-1(2)	；浚渫出来形管理図	83
様式・出来形 1-5-1(1)	；洗掘防止マット出来形管理表	46			
様式・出来形 1-5-1(2)	；洗掘防止マット出来形管理図	47			
様式・出来形 1-6-1	；砂・石材中詰出来形管理表	48			
様式・出来形 1-7-1	；蓋コンクリート出来形管理表	49			
様式・出来形 1-9-2	；鋼矢板出来形管理表	50			
様式・出来形 1-10-5	；腹起出来形管理表	51			
様式・出来形 1-10-6	；タイ材出来形管理表	52			
様式・出来形 1-11-2(1)	；鋼杭打込記録	53			
様式・出来形 1-11-2(2)	；鋼杭出来形管理表	54			
様式・出来形 1-13-1(1)	；電気防食出来形管理表	55			
様式・出来形 1-13-1(2)	；電気防食電位測定管理表	56			
様式・出来形 1-14-1(1)	；路盤出来形管理表	57			
様式・出来形 1-14-1(2)	；路盤出来形管理図	58			
様式・出来形 1-15-3(1)	；舗装出来形管理表	59			
様式・出来形 1-15-3(2)	；舗装出来形管理図	60			
様式・出来形 3-3-1	；置換材出来形管理表	62			
様式・出来形 4-3-2(1)	；基礎石均し出来形管理図(1)	63			
様式・出来形 4-3-2(2)	；基礎石均し出来形管理図(2)	64			
様式・出来形 5-1-1	；ケーソン製作出来形管理表	65			
様式・出来形 5-2-1	；ケーソン据付出来形管理表	66			
様式・出来形 6-1(1)	；ブロック（方塊）製作出来形管理表	67			
様式・出来形 6-1(2)	；L型ブロック製作出来形管理表	68			
様式・出来形 6-1(3)	；セルラーブロック製作出来形管理表	69			
様式・出来形 6-1(4)	；ブロック製作等外見チェックリスト	70			
様式・出来形 13-1-1(1)	；被覆石均し出来形管理図(1)	71			
様式・出来形 13-1-1(2)	；被覆石均し出来形管理図(2)	72			
様式・出来形 13-3-1	；根固ブロック製作出来形管理表	73			
様式・出来形 14-1(1)	；上部コンクリート(防波堤)出来形管理表	74			
様式・出来形 14-1(2)	；上部コンクリート(岸壁)出来形管理表	75			

1. 共通の工程

1-1 浚渫土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 土砂掘削 2. 土砂盛土	基準高	レベル等により測定	法肩、法尻及び中心を延長20mに1箇所以上	1 cm	測定表を作成し提出	特による。	様式・出来形1-1-1参照
	幅	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	特による。	
	法 長	スチールテープ等により測定	延長20mに1箇所以上	10cm	測定表を作成し提出	特による。	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端及び中心	10cm	測定表を作成し提出	特による。	

1-2 圧密・排水工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. サンドドレーン	位 置	トランシット及び光波測距儀により測定	転船毎及び監督職員の指示による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	特による。	自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+；設計値より浅いことをいう。 -；設計値より深いことをいう。
	砂の投入量	打込記録の確認	全 数	0.1m ³	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
2. 敷砂均し	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	様式・出来形1-2-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高 1 cm 天端幅 10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm 天端幅、法面勾配は特による。	
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
3. 載荷土砂	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない -0	
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅 10cm 天端高 1 cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±50cm 天端幅、法面勾配は特による。	

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
4. ペーパードレーン	位 置	トランシット及び光波測距儀により測定	転船毎及び監督職員の指示による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	特による。	自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋；設計値より浅いことをいう。 －；設計値より深いことをいう。
	ドレーン材の打込長	打込記録の確認	全 数	10cm	打込記録紙に打込長を記入し提出		
5. グラベルマット	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	＋規定しない －0	様式・出来形1-2-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端高 1 cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm 天端幅、法面勾配は特による。	
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
6. グラベルドレーン	位 置	トランシット及び光波測距儀により測定	転船毎及び監督職員の指示による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	特による。	自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	全 数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 ＋規定しない －0 先端深度 ＋0 －規定しない	＋；設計値より浅いことをいう。 －；設計値より深いことをいう。
	砕石の投入量	打込記録の確認	全 数	0.1m ³	打込記録紙に砕石の投入量を記入し提出		

1-3 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ロッドコンパクション	位 置	トランシット及び光波測距儀により測定	⑨による。	10cm	管理図に測定結果を記入し提出		
	充填材の投入量			0.1m ³	測定記録等の提出		
	天端高	打込記録の確認	全 数	10cm	打込記録の提出	天端高 +規定しない -0	
	先端深度	打込記録の確認	全 数	10cm	打込記録の提出	先端深度 +0 -規定しない	+；設計値より浅いことをいう。 -；設計値より深いことをいう。
2. サンドコンパクションパイル	位 置	トランシット、光波測距儀により測定	転船毎及び監督職員の指示による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出	⑨による。	様式・出来形1-3-2参照 自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	天端高 先端深度	打込記録の確認	砂杭全数	10cm	打込記録紙及び管理表を作成して提出	天端高 +規定しない -0 先端深度 +0 -規定しない	+；設計値より浅いことをいう。 -；設計値より深いことをいう。
	砂の投入量	打込記録の確認	砂杭全数	0.1m ³	打込記録紙に砂の圧入量を記入し提出		
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は特による。	10cm	盛上り量の平面図を作成し提出		
3. 盛上土砂撤去	撤去量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	完了後 測線・測点間隔は特による。	10cm	撤去量の平面図を作成し提出		
4. 敷砂均し							1-2-2敷砂均しを適用する。

1-4 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 深層混合処理杭	位 置	トランシット及び光波測距儀により測定	海上施工は改良杭全数。 陸上施工は特による。	1 cm	管理図に測定結果を記入し提出		様式・出来形1-4-1参照 自動位置決め装置を使用している場合、その作動状況が確認されていれば不要
	鉛直度 接 合	トランシット及び傾斜計等により処理機の鉛直度を測定	改良杭全数 深度方向に2～5 m程度毎に測定 (引抜きと貫入時)	1 分又は 1 cm	改良杭先端部の軌跡図を作成し提出	特による。	陸上施工は除く。
	天端高 先端深度	深度計、ワイヤー繰出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により確認	改良杭全数	1 cm	打込記録紙に天端高、先端深度を記入し管理表を提出	天端高 +規定しない - 0 先端深度 + 0 -規定しない	+ ; 設計値より浅いことをいう。 - ; 設計値より深いことをいう。
	固化材吐出量	流量計等により硬化材のm当りの吐出量を確認	改良杭全数	1 0または 1 t	打込記録紙に硬化材吐出量を記入し提出		
	盛上り量	レベル、音響測深機又はレッドにより測定	改良前、改良後	10cm	盛上り量の図面を作成し提出		
2. 敷砂均し							1-2-2敷砂均しを適用する。
3. 事前混合処理	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない - 0	
	天端高、天端幅	陸上部：スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高 1 cm	管理図に天端高、天端幅を記入し提出	特による。	
		水中部：スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm			
4. 表層固化処理	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない - 0	
	天端高、天端幅、厚さ	スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下 測点間隔10m以下	天端幅10cm 天端高・厚さ 1 cm	管理図に天端高、天端幅、厚さを記入し提出	特による。	

1-5 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 洗掘防止	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	⑨による。	様式・出来形1-5-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点	1 cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット、ゴムマット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

1-6 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 砂・石材中詰	天端高	レベル、水系張り、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)	1 cm	管理表を作成し提出	陸上±5 cm 水中±10cm	様式・出来形1-6-1参照
2. コンクリート中詰 3. プレパックドコンクリート中詰	天端高	レベル、水系張り、スチールテープ等によりケーソン天端面からの下りを測定	1室につき1箇所(中心)	1 cm	管理表を作成し提出	陸上±3 cm 水中±5 cm	

1-7 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 蓋コンクリート	天端高	レベル、水系張り、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所(中心)	1 cm	管理表を作成し提出	陸上±3 cm 水中±5 cm	様式・出来形1-7-1参照

1-8 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 蓋ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 +2 cm, -1 cm 高さ+2 cm, -1 cm 長さ+2 cm, -1 cm 壁厚±1 cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
2. 蓋ブロック据付	蓋ブロック据付(天端高)	レベル、水系張り、スチールテープ等により測定	1室につき1箇所	1 cm	管理表を作成し提出	陸上±3 cm 水中±5 cm	

1-9 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 先行掘削	位 置	トランシット、スチールテープ等により測定	全 数	10cm	測定表を作成し提出	特による。	
	掘削長 掘削深度	レベル等により測定	全 数	10cm	測定表を作成し提出	特による。	
	掘削径	スチールテープ等により測定（水中の場合はケーシング径等により確認）	全数（水中の場合は適宜）	10cm	測定表を作成し提出	特による。	
2. 鋼矢板							
イ) 鋼矢板	打込記録	共第1編 5-3-14-2-11 打込記録	40枚に1枚		打込記録を提出		様式・出来形1-9-2参照
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 cm	管理表を作成し提出	+ 矢板1枚幅 - 0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水土）	全 数		観察結果を報告		
ロ) 鋼管矢板	打込記録	共第1編 5-3-14-2-11 打込記録	20本に1本		打込記録を提出		
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 cm	管理表を作成し提出	特による。	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、10本に1本 及び計画法線の変化点	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数確認後 10本に1本及び変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、10本に1本	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水土）	全 数		観察結果を報告		

1-10 控工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 控鋼矢板	打込記録	共第1編 5-3-15-2-11 打込記録	40枚に1枚		打込記録を提出		様式・出来形1-9-2参照
	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 cm	管理表を作成し提出	+ 矢板 1 枚幅 - 0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚 及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	10/1000以下	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板 1 枚幅未満 10/1000以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1 cm	管理表を作成し提出	±10cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全 数		観察結果を報告		
2. 控鋼杭	打込記録	共第1編 5-3-15-3-9 打込記録	20本に1本		打込記録を提出		様式・出来形1-11-2参照
	杭頭中心位置	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出	10cm以下	
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	杭の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、全数	1°	管理表を作成し提出	直杭 2° 以下 斜杭 3° 以下	
3. プレキャストコンクリート控壁	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	据付後ブロック 1 個につき 2 箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック 1 個につき 2 箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	特による。	
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック 1 個につき 2 箇所	1 cm	管理表を作成し提出		

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
4. 場所打コンクリート控壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1 スパン3 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は特による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1 スパン3 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
	延長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1 スパン2 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
5. 腹 起	取付高さ	レベル等により測定	取付完了時、両端（継手毎）全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-10-5参照
	継手位置	観 察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	ボルトの取付け	観 察	取付完了時、全数		観察結果を報告		
	矢板と腹起しとの密着	観 察	タイロッド毎、全数		観察結果を報告		
6. タイ材							
イ) タイロッド取付	取付け高さ及び水平度	レベル等により測定	締付後両端、全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形1-10-6参照 腹起しに取り付ける場合は不要
	矢板法線に対する取付角度及び取付間隔	スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観 察	全 数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	
	ターンバックルのねじ込み長さ	観 察	全 数	1 cm	観察結果を報告	定着ナットの高さ以上	
	リングジョイントのコンクリートへの埋込み	観 察	全 数		観察結果を報告		
	支保材の天端高	レベル等により測定	適 宜	1 cm	管理表を作成し提出		
ロ) タイワイヤー取付	取付高さ	レベル等により測定	締付後両端、全数	1 cm	管理表を作成し提出		腹起しに取り付ける場合は不要
	矢板法線に対する取付角度及び取付間隔	スチールテープ等により測定	締付後両端、全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	定着ナットの締付け	観 察	全 数		観察結果を報告	ねじ山が3つ山以上突き出していること。	

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
	定着具端部 栓の取付け	観 察	全 数		観察結果を報告		
	トランペット トシースの 取付	観 察	全 数		観察結果を報告		

1-11 鋼杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 先行掘削							1-9-1先行掘削を適用する。
2. 鋼 杭	打込記録	共第1編 5-3-16-2-9 打込記録	共第1編 5-3-16-2-9支 持杭は全数、支持杭以外 は20本に1本		打込記録を提出		様式・出来形1-11-2参照
	杭頭中心位 置	トランシット、スチー ルテープ等により測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提 出	10cm以下	
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提 出	± 5 cm	
	杭の傾斜	トランシット、下げ振 り、傾斜計等により測 定	打込完了時、全数	1 °	管理表を作成し提 出	直杭 2 ° 以下 斜杭 3 ° 以下	

1-12 コンクリート杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. コンクリート杭	打込記録	JIS A 7201 記録	支持杭は全数、支持杭以 外は20本に1本		JIS A 7201 付表 5 打込み工法記録を 作成し提出		
	杭頭中心位 置	トランシット、スチー ルテープ等により測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提 出	10cm以下	
	杭天端高	レベルにより測定	打込完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提 出	± 5 cm	
	杭の傾斜	トランシット、下げ振 り、傾斜計等により測 定	打込完了時、全数	1 °	管理表を作成し提 出	直杭 2 ° 以下 斜杭 3 ° 以下	

1-13 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 電気防食	取付位置	目視（承諾された図面より確認）潜水士による。	取付完了後、全数	1cm	測定表を作成し提出	±20cm ※水深の変状等により図面通りに取付が困難な場合は別途協議と	様式・出来形1-13-1参照
	電位測定	測定機器による。	取付完了後、測定端子取付箇所毎	1 m V	測定表を作成し提出	飽和かんこう電極基準；－770mV 海水塩化銀基準；－780mV 又は飽和硫酸銅電極基準；－850mV	
2. FRPモルタルライニング	取付高さ	レベルにより測定	取付完了後、上端高さ 鋼管杭；全 数 矢板；1 打設 3 箇所以上	特による	測定表を作成し提出		
3. ペトロラタムライニング 4. コンクリート被覆 5. 防食塗装	高さ	レベルにより測定	完了後、上端・下端高さ 鋼管杭；全 数 矢板；1 打設 3 箇所以上	特による	測定表を作成し提出		

1-14 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 下層路盤	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 4 cm	様式・出来形1-14-1参照
	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は⑦による。	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -4.5cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 5 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
2. 上層路盤	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は⑦による。	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 5 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
3. コンクリート舗装版	厚 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 1 cm	コンクリート版の厚さ、その他を確認するため、監督職員が必要と認めたときは、コアを採取する。
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
	平坦性	3 mプロフィールメータにより測定	各レーン毎全延長	1 mm	記録紙及び管理表を作成し提出	機械舗設の場合 2 mm以下 人力舗設の場合 3 mm以下	

1-15 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 下層路盤	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は⑨による。	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -4.5cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 5 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
2. 上層路盤	厚 さ	レベル等により測定	舗装は1,000m ² に1箇所、道路舗装は⑨による。	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 3 cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 5 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
3. 基 層	厚 さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m ² に1箇所	1 mm	測定表を作成し提出	+規定しない -1.2cm	様式・出来形1-15-3参照
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
4. 表 層	厚 さ	抜き取りコアをスチールテープ等で測定	1,000m ² に1箇所	1 mm	測定表を作成し提出	+規定しない - 9 mm	様式・出来形1-15-3参照
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -2.5cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端 2 箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない - 0	
	平坦性	3 mプロフィルメータにより測定	各レーン毎全延長	1 mm	記録紙及び管理表を作成し提出	2.4mm以下	

1-16 植生工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 張 芝 2. 筋 芝	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅 (面積)	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m ²)	管理表を作成し提出	+規定しない -0	
	植生状況	観 察	施工完了後、区域全体		観察結果を報告		
3. 播 種 4. 種子吹付	材料の使用数量	使用数量表等により確認	施工完了後		使用数量表等を作成し提出		
	長さ、幅 (面積)	スチールテープ等により測定	施工完了後	10cm (0.1m ²)	管理表を作成し提出	+規定しない -0	
	植生状況	㊦による。	㊦による。		㊦による。	㊦による。	
5. 植 栽	材料の使用数量	使用数量表等により確認	搬入時、全数		使用数量表等を作成し提出		
	樹高、枝張り幅、幹周り	スチールテープ等により測定	種類毎、搬入後適宜	樹高、枝張り幅 10cm 幹周り 1cm	管理表を作成し提出	+規定しない -0	
	植付け状況	観 察	施工完了後、全本数		観察結果を報告		

2. 土捨工

2-1 浚渫土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
浚渫土工							1-1浚渫土工を適用する。

3. 海上地盤改良工

3-1 床掘工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ポンプ床掘 2. グラブ床掘 3. 硬土盤床掘 4. 砕岩床掘 5. バックホウ床掘	水 深 (底面) (法面)	調査共通仕様書による。又は㊟による。 調査共通仕様書による。又は㊟による。	測線間隔は㊟による。 測線間隔は㊟による。	10cm 10cm	平面図に実測値を記入し提出 平面図に実測値を記入し提出	±30cm又は㊟による。 外側2m(法面に直角) 内側30cm(法面に直角) 又は㊟による。	断面図は監督職員が指示したとき作成し提出

3-2 床掘土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 土砂掘削							1-1-1土砂掘削を適用する。
2. 土砂盛土							1-1-2土砂盛土を適用する。

3-3 置換工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 置換材均し	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない - 0	様式・出来形3-3-1参照
	天端高、天端幅、法面	陸上部；スチールテープ、レベル、光波測距儀等で測定	測線間隔20m以下測点間隔10m以下	天端高 1 cm 天端幅10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±50cm又は㊟による。 天端幅、法面は㊟による。	
		水中部；スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下測点間隔20m以下	10cm			

3-4 圧密・排水工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
圧密・排水工							1-2圧密・排水工を適用する。

3-5 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
締固工							1-3締固工を適用する。

3-6 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
固化工							1-4固化工を適用する。

4. 基礎工

4-1 基礎盛砂工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 盛砂均し	延 長	スチールテープ、間縄、光波測距儀等により測定	施工完了後	10cm	管理図に延長を記入し提出	+規定しない - 0	様式・出来形1-2-2参照
	天端高 天端幅 法面勾配	スチールテープ、間縄、レッド又は音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	管理図に天端高、法肩、法尻、天端幅及び法面勾配を記入し提出	天端高 ±30cm 天端幅、法面勾配は⑨による。	

4-2 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
洗掘防止工							1-5洗掘防止工を適用する。

4-3 基礎捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 基礎捨石 (均しを行わない面)	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	特による。	
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	均し出来形図を作成し提出	特による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	特による。	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による	10cm	均し出来形図を作成し提出	特による。	
2. 捨石本均し	天端高	レベル又は特により測定	測線及び測点間隔は10m以下	1 cm	均し出来形図を作成し提出	± 5 cm	様式・出来形4-3-2参照
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による	10cm	均し出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
3. 捨石荒均し	天端高	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	注)-1 ±50cm、岸壁前面+0,-20cm又は特による。異形ブロック据付面（整積）の高さ（法面に直角）±30cm又は特による。	注)-1 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下測点3点以上、但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	均し出来形図を作成し提出	注)-2 ±50cm（法面に直角）異形ブロック据付面（整積）の高さ（法面に直角）±30cm又は特による。	注)-2 係留施設・護岸・土留壁等の背面については、荒均しを適用しない。
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	均し出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	法線上又は監督職員の指示による	10cm	均し出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	

4-4 基礎ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 基礎ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法（異形ブロック）	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観（異形ブロック）	観察	全 数		観察結果を報告		
2. 基礎ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3 cm以下	
	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		

5. 本体工（ケーソン式）

5-1 ケーソン製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ケーソン製作	摩擦増大用 マット敷設 位置	スチールテープ等により確認	始・終端及び変化する箇所毎	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	(特)による。	
	高 さ	スチールテープ等により測定	完成時、四隅	1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	様式・出来形5-1-1参照
	幅	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端	1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
	長 さ	スチールテープ等により測定	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端	1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
	壁 厚	スチールテープ等により測定	各層完成時、各壁 1 箇所	1 cm	管理表を作成し提出	± 1 cm	
	底版厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	底版完成時、各室中央部 1 箇所	1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
	フーチング 高さ	スチールテープ等により測定	底版完成時、四隅	1 cm	管理表を作成し提出	+ 3 cm - 1 cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	底版完成時及び完成時	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	バラスト	レベル、レッド等により測定	各室中央部 1 箇所	1 cm	管理表を作成し提出	砕石・砂 ±10cm コンクリート ± 5 cm	投入量管理

5-2 ケーソン進水据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ケーソン進水据付	法線に対する出入	トランシット及びスチールテープ等により測定	据付完了後、両端 2 箇所	1 cm	管理表を作成し提出	防波堤 ケーソン質量 2,000t未満±20cm 2,000t以上±30cm 岸 壁 ケーソン質量 2,000t未満±10cm 2,000t以上±15cm	様式・出来形5-2-1参照
	据付目地間隔	スチールテープ等により測定	据付完了後、天端 2 箇所	1 cm	管理表を作成し提出	防波堤 ケーソン質量 2,000t未満 20cm以下 2,000t以上 30cm以下 岸 壁 ケーソン質量 2,000t未満 10cm以下 2,000t以上 20cm以下	
	天端高さ	レベルにより測定	据付完了後、四隅 中詰完了時、四隅	1 cm	管理表を作成し提出		
	延長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上	1 cm	管理表を作成し提出		

5-3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
中詰工							1-6中詰工を適用する。

5-4 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋コンクリート工							1-7蓋コンクリート工を適用する。

5-5 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋ブロック工							1-8蓋ブロック工を適用する。

6. 本体工（ブロック式）

6-1 本体ブロック製作工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 本体ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 L型ブロック セルラーブロック ブロック(方塊) 様式・出来形6-1参照 セルラーブロック ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観（異形ブロック）	観 察	全 数		観察結果を報告		

6-2 本体ブロック据付工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 本体ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	L型ブロック セルラーブロック 5 cm以下 直立消波ブロック ブロック(方塊) 3 cm以下	
	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		

6-3 中詰工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
中詰工							1-6中詰工を適用する。

6-4 蓋コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋コンクリート工							1-7蓋コンクリート工を適用する。

6-5 蓋ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
蓋ブロック工							1-8蓋ブロック工を適用する。

7. 本体工（場所打式）

7-1 場所打コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
場所打コンクリート工							
イ) 防波堤	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 2 cm 天端幅10mを超える場合は + 5 cm - 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選 定は㊦による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 3 cm 天端幅10mを超える場合は + 5 cm - 3 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は㊦による。	
ロ) 岸 壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選 定は㊦による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎	1 cm	測定表を作成し提出		

7-2 水中コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
水中コンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

7-3 プレパックドコンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
プレパックドコンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

7-4 水中不分離性コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
水中不分離性コンクリート工							7-1場所打コンクリート工を適用する。

8. 本体工（捨石・捨ブロック式）

8-1 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
洗掘防止工							1-5洗掘防止工を適用する。

8-2 本体捨石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
本体捨石工							4-3基礎捨石工を適用する。

8-3 捨ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 捨ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後10個に1個以上測定	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	様式・出来形6-1参照 ブロック(方塊)
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数10個に1個以上測定	1 cm	管理表を作成し提出		
	型枠形状寸法 (異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観 (異形ブロック)	観察	10個に1個以上		観察結果を報告		
2. 捨ブロック据付	法線に対する出入	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	± 5 cm	
	隣接ブロックとの間隔	スチールテープ等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最下段、最上段）	1 cm	管理表を作成し提出	ブロック(方塊) 3 cm以下	
	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		
	天端高	レベル等により測定	据付後ブロック1個につき2箇所（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		

8-4 場所打コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
場所打コンクリート工	天端高	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±2 cm 天端幅10mを超える場合は+5 cm－2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さの管理項目の選定は⑨による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合は±3 cm 天端幅10mを超える場合は+5 cm－3 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない－0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	±5 cm 注) 又は⑨による。	

9. 本体工（鋼矢板式）

9-1 鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
鋼矢板工							1-9鋼矢板工を適用する。

9-2 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
控 工							1-10控工を適用する。

10. 本体工（コンクリート矢板式）

10－1 コンクリート矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. コンクリート矢板	矢板壁延長	スチールテープ等により測定（天端付近）	施工中適宜 打込完了時	1 cm	管理表を作成し提出	+矢板1枚幅 －0	
	矢板法線に対する出入り	トランシット、スチールテープ等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1 cm	管理表を作成し提出	⑨による。	全数を目視で確認
	矢板法線に対する傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	打込完了時、20枚に1枚及び計画法線の変化点	1/1000	管理表を作成し提出	⑨による。	
	矢板法線方向の傾斜	トランシット、下げ振り、傾斜計等により測定	施工中適宜 打込完了時（両端部）	1 cm 1/1000	管理表を作成し提出	上下の差が矢板1枚幅未満2/100以下	
	矢板天端高	レベルにより測定	打込完了時、20枚に1枚	1 cm	管理表を作成し提出	±5 cm	全数を目視で確認
	矢板継手部の離脱	観察（水中部は潜水士）	全 数		観察結果を報告		

10－2 控 工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
控 工							1-10控工を適用する。

11. 本体工（鋼杭式）

11－1. 鋼杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
鋼杭工							1-11鋼杭工を適用する。

12. 本体工（コンクリート杭式）

12－1 コンクリート杭工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
コンクリート杭工							1-12コンクリート杭工を適用する。

13. 被覆・根固工

13-1 被覆石工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 被覆石 (均しを行わない面)	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	様式・出来形13-1-1参照
2. 被覆石均し	天端面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線及び測点間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm 岸壁前面 +0、20cm又は 特による。	
	法 面	音響測深機、レッド又はレベル等により測定	測線間隔は10m以下、測点3点以上但し、マウンド厚2m以下の場合は2点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±50cm(法面に直角)異形ブロック据付面(整積)の高さ(法面に直角)±30cm又は特による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上又は監督職員の指示による。	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -20cm	

13-2 被覆ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 被覆ブロック製作	型枠形状寸法(異形ブロック)	観察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観(異形ブロック)	観察	10個に1個以上		観察結果を報告		
2. 被覆ブロック据付	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上(最上段のみ)	1 cm	管理表を作成し提出		

13-3 根固ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 根固ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	10個に1個以上測定	1 cm	管理表を作成し提出	幅 +2 cm, -1 cm 高さ+2 cm, -1 cm 長さ+2 cm, -1 cm 壁厚±1 cm	様式・出来形13-3-1参照
	対角線	スチールテープ等により測定	10個に1個以上測定	1 cm	管理表を作成し提出		
2. 根固ブロック据付							13-2-2被覆ブロック据付を適用する。

14. 上部工

14-1 上部コンクリート工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
上部コンクリート工 イ) 防波堤	天端高又は厚さ	レベル等により測定	天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 2 cm 天端幅10mを超える場合は + 5 cm - 2 cm	様式・出来形14-1参照 天端高さ又は厚さの管理項目の選定は図による。 注) 本体がケーソンの場合 ケーソン質量 2,000t未満 ±20cm 2,000t以上 ±30cm
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	天端幅10m以下の場合 は± 3 cm 天端幅10mを超える場合は + 5 cm - 3 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm 注) 又は特による。	
ロ) 岸 壁	天端高又は厚さ	レベル、スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	天端高又は厚さの管理項目の選定は図による。
	天端幅	スチールテープ等により測定	1スパン3箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 2 cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	法線上	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 0	
	法線に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	1スパン2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
	防舷材ベッド	スチールテープ等により測定	スパン毎	1 cm	測定表を作成し提出		
ハ) 栈 橋							14-1上部コンクリート工ロ)岸壁を適用する。 梁(高さ、幅)、床版厚は型枠検査による。

14-2 上部ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 上部ブロック製作	幅、高さ、長さ、壁厚	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出	幅 + 2 cm, - 1 cm 高さ + 2 cm, - 1 cm 長さ + 2 cm, - 1 cm 壁厚 ± 1 cm	
	対角線	スチールテープ等により測定	型枠取外し後全数	1 cm	管理表を作成し提出		
2. 上部ブロック据付							
イ) 防波堤							14-1上部コンクリート工 イ) 防波堤を適用する。
ロ) 岸 壁							14-1上部コンクリート工 ロ) 岸壁を適用する。
ハ) 栈橋上部コンクリート							14-1上部コンクリート工 ハ) 栈橋を適用する。

15. 付属工

15-1 係船柱工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 係船柱	天端高	レベルにより測定	据付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出	曲柱±2 cm 直柱±2 cm	様式・出来形15-1-1参照
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	据付完了時、全数	1 cm	管理表を作成し提出		
	中心間隔	スチールテープ等により測定	据付完了時、各スパン毎中心部、各基	1 cm	管理表を作成し提出		
	直柱基礎コンクリート（幅）	スチールテープ等により測定	完了時、全数、天端両端	1 cm	管理表を作成し提出		
	（長さ）	スチールテープ等により測定	完了時、全数、前後面	1 cm	管理表を作成し提出		
	（高さ）	レベルにより測定	完了時、全数、中心点	1 cm	管理表を作成し提出		

15-2 防舷材工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 防舷材	取付高さ	レベル又はスチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-2-1参照
	中心間隔	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出		

15-3 車止・縁金物工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
車止・縁金物工	天端高	レベルにより測定	取付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出		様式・出来形15-3-1参照
	岸壁前面に対する出入	トランシット、スチールテープ等により測定	取付完了後中心部を1点	1 cm	管理表を作成し提出	±3 cm	
	取付間隔	スチールテープ等により測定	上部工1スパンに2箇所	1 cm	管理表を作成し提出		
	塗 装	目視による観察			観察結果を報告		
	警戒色（シマ模様）	スチールテープ等により測定	完了時適宜		確認結果を報告		

15-4 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
防食工							1-13防食工を適用する。

15-5 付属設備工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
係船環	取付位置	スチールテープ等により測定	取付完了時、中心部、全数	1 cm	管理表を作成し提出		

16. 消波工

16-1 洗掘防止工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
洗掘防止工							1-5洗掘防止工を適用する。

16-2 消波ブロック工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 消波ブロック製作	型枠形状寸法（異形ブロック）	観 察	型枠搬入後適宜		観察結果を報告		
	ブロック外観（異形ブロック）	観 察	10個に1個以上		観察結果を報告		
2. 消波ブロック据付	延 長	スチールテープ等により測定	据付完了後、法線上（最上段のみ）	1 cm	管理表を作成し提出		

17. 裏込・裏埋工

17-1 裏込工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 裏込材 (均しを行わない面)	天端高	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上	10cm	出来形図を作成し提出	特による。	
2. 裏込均し	天端面	レベル、レッドにより測定	測線及び測点間隔は10m以下	陸上 1 cm 水中 10cm	出来形図を作成し提出	±20cm	
	法 面	レベル、レッドにより測定	測点は3点以上	10cm	出来形図を作成し提出	±20cm (法面に直角)	マット等を使用する場合を含む。
	天端幅	スチールテープ、間縄等により測定	測線間隔は10m以下	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	天端中心上	10cm	出来形図を作成し提出	+規定しない -10cm	
3. 吸出し防止材	敷設位置	スチールテープ、間縄等により測定	始、終端及び変化する箇所毎並びに20mに1箇所以上	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	特による。	様式・出来形1-5-1参照 アスファルトマット、繊維系マット、合成樹脂系マット
	重ね幅	スチールテープ等により測定	1枚に2点	1 cm	測定表及び敷設図を作成し提出	50cm以上(アスファルトマット・繊維系マット) 30cm以上(合成樹脂系マット)	
	延 長	スチールテープ、間縄等により測定	マットの中心を区間毎及び全長	10cm	測定表及び敷設図を作成し提出	+規定しない -10cm	

17-2 裏埋工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
裏埋工	地盤高 (陸上部)	レベル等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	1 cm	平面図に実測値を記入し提出	特による。	変化点は測定する。
	(水中部)	レベル、レッド及び音響測深機等により測定	測線間隔20m以下 測点間隔20m以下	10cm	平面図に実測値を記入し提出	特による。	変化点は測定する。

17-3 裏埋土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 土砂掘削	地盤高						1-1-1土砂掘削を適用する。
2. 土砂盛土	地盤高						1-1-2土砂盛土を適用する。

18. 陸上地盤改良工

18-1 圧密・排水工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
圧密・排水工							1-2圧密・排水工を適用する。

18-2 締固工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
締固工							1-3締固工を適用する。

18-3 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
固化工							1-4固化工を適用する。

19. 土 工

19-1 掘削工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 土砂掘削							1-1-1土砂掘削を適用する。

19-2 盛土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 土砂盛土							1-1-2土砂盛土を適用する。

19-3 路床盛土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 路床盛土	高 さ	レベル等により測定	舗装は中心及び両端部の3点を延長20mに1箇所、道路舗装は中心及び両端部の3点を延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
	幅	スチールテープ等により測定	舗装は延長20mに1箇所、道路舗装は延長40mに1箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -10cm	
	延 長	スチールテープ等により測定	両端2箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+規定しない -0	

19－4 法面工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 法 面							1-1-1土砂掘削、1-1-2土砂盛土及び1-16植生工を適用する。

20. 舗装工

20－1 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
コンクリート舗装工							1-14コンクリート舗装工を適用する。

20－2 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
アスファルト舗装工							1-15アスファルト舗装工を適用する。

21. 維持補修工

21－1 維持塗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 係船柱塗装	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	特による。	
2. 車止塗装 イ) 鋼 製	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	特による。	
ロ) その他	塗装箇所	目視（承諾された図面より確認）	塗装完了後、全数		確認結果を提出	特による。	
3. 縁金物塗装							21-1-2車止塗装を適用する。

21－2 防食工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
防食工							1-13防食工を適用する。

22. 構造物撤去工

22-1 取壊し工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. コンクリート取壊し	外 観	目視による観察	全 数		観察結果を報告		

22-2 撤去工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 水中コンクリート撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	④による。	④による。	管理表を作成し提出	④による。	
	外 観	潜水士による観察	全 数		観察結果を報告		
2. 鋼矢板等切断撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	1 mm	測定表を作成し提出	④による。	
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数		観察結果を報告		
3. 腹起・タイ材撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	④による。	測定表を作成し提出	④による。	
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数		観察結果を報告		
4. 舗装版撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	④による。	④による。	管理表を作成し提出	④による。	
	外 観	目視による観察	全 数		観察結果を報告		
5. 石材撤去	幅、高さ、延長	トランシット、スチールテープ等により測定	④による。	④による。	管理表を作成し提出	④による。	
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数		観察結果を報告		
6. ケーソン撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	④による。	測定表を作成し提出	④による。	
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数		観察結果を報告		
7. ブロック撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	④による。	測定表を作成し提出	④による。	
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数		観察結果を報告		
8. 鋼矢板・H形鋼杭引抜き撤去	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	④による。	測定表を作成し提出	④による。	
	外 観	目視又は潜水士による観察	全 数		観察結果を報告		

23. 仮設工

23-1 仮設鋼矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 仮設鋼矢板・H形鋼杭							1-9-2鋼矢板 i) 鋼矢板を適用する。

23-2 仮設鋼管杭・鋼管矢板工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 先行掘削							1-9-1先行掘削を適用する。
2. 仮設鋼管杭・鋼管矢板工							1-9-2鋼矢板式 r) 鋼管矢板及び1-11-2鋼杭を適用する。

23-3 仮設道路工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 仮設道路工							1-14コンクリート舗装工及び1-15アスファルト舗装工を適用する。

24. 雑 工

24-1 現場鋼材溶接工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 現場鋼材溶接	形状寸法 (のど厚、脚長、溶接長等)	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適 宜	1 mm	測定表を作成し提出	特)による。	様式・出来形24-1-1参照
	ひずみ	目視による観察	全 数		観察結果を報告		
	有害な欠陥の有 無	目視による観察	適 宜		観察結果を報告		
2. 被覆溶接(水中)	形状寸法 (のど厚、脚長、溶接長等)	スチールテープ、ノギス、溶接ゲージ等により測定	適 宜	1 mm 溶接長は1 cm	測定表を作成し提出	特)による。	
	外 観	潜水士による観察	全 数		観察結果を報告		
3. スタッド溶接(水中)							24-1-2被覆溶接(水中)を適用する。

24-2 現場鋼材切断工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 現場鋼材切断							
イ) 陸上現場切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	1 mm	測定表を作成し提出	特による。	
	外 観	目視による観察	全 数		観察結果を報告		
ロ) 水中切断	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	1 mm	測定表を作成し提出	特による。	
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数		観察結果を報告		

24-3 その他雑工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 清 掃	幅、長さ、延長	スチールテープ等により測定	全 数	1 mm	測定表を作成し提出	特による。	
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数		観察結果を報告		
2. 削 孔	形状寸法	スチールテープ等により測定	全 数	1 mm	測定表を作成し提出	特による。	
	外 観	目視又は潜水土による観察	全 数		観察結果を報告		

25. 浚渫工

25-1 ポンプ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. ポンプ浚渫	水 深 (底面)	業務共通仕様書による。又は特による。	特による。	10cm	業務共通仕様書2-2-5 平面図に実測値を記入し提出	+0 -規定しない又は特による。	様式・出来形25-1参照 +；設計値より浅いことをいう。
	(法面)	特検測方法による。	測線間隔は特による。	10cm	業務共通仕様書2-2-5 平面図に実測値を記入し提出	+0 -規定しない又は特による。	-；設計値より深いことをいう。

25-2 グラブ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. グラブ浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25-3 硬土盤浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 硬土盤浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25－4 岩盤浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 砕岩浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25－5 バックホウ浚渫工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. バックホウ浚渫							25-1-1ポンプ浚渫を適用する。

25－6 浚渫土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
浚渫土工							1-1浚渫土工を適用する。

26. 埋立工

26－1 固化工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
固化工							1-4固化工を適用する。

26－2 埋立土工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 土砂掘削							1-1-1土砂掘削を適用する。
2. 土砂盛土							1-1-2土砂盛土を適用する。

27. 道路舗装工

27-1 コンクリート舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
コンクリート舗装工							1-14コンクリート舗装工を適用する。

27-2 アスファルト舗装工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
アスファルト舗装工							1-15アスファルト舗装工を適用する。

27-3 道路付属工

工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
1. 縁 石	高 さ	レベルにより測定	監督職員の指示による。	1 cm	測定表を作成し提出	± 3 cm	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 5 cm	
2. 区画線及び道路標示	幅	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1 cm	測定表を作成し提出	± 1 cm	
	長 さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1 cm	測定表を作成し提出	± 10cm	
3. 道路標識	高 さ	スチールテープ等により測定	1 箇所に 1 回	1 cm	測定表を作成し提出	± 5 cm	
4. 防護柵	高 さ	スチールテープ等により測定	監督職員の指示による。	1 cm	測定表を作成し提出	+ 3 cm - 2 cm	
	総延長	スチールテープ等により測定	図面に記載する箇所	1 cm	測定表を作成し提出	+ 規定しない - 10cm	

28. 緑地工

28-1 植生工

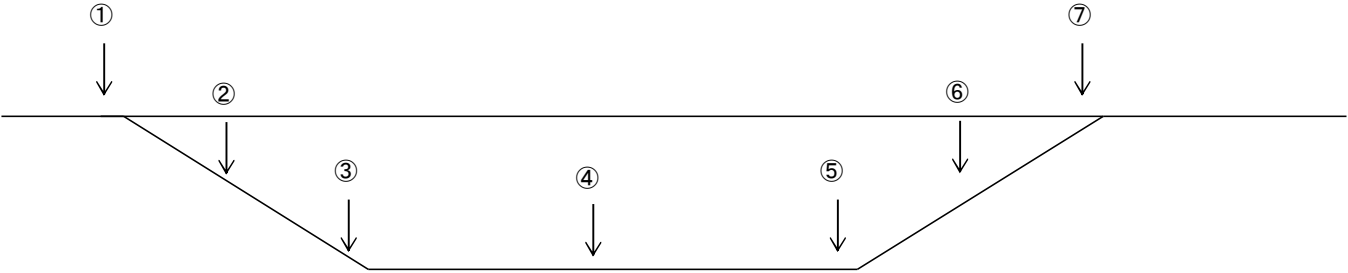
工 種	管理項目	測定方法	測定密度	測定単位	結果の整理方法	許容範囲	備 考
植生工							1-16植生工を適用する。

土砂掘削出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

種 別 測 点		高 さ							幅			延 長		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	○～○	○～○	○～○	○線上	法線上	○線上
NO. ○○	設計値													
	測定値											NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○
	差											}	}	}
NO. ○○														
NO. ○○														
												}	}	}
												NO. ○○	NO. ○○	NO. ○○



様式・出来形1-2-2(1)

工事名: _____

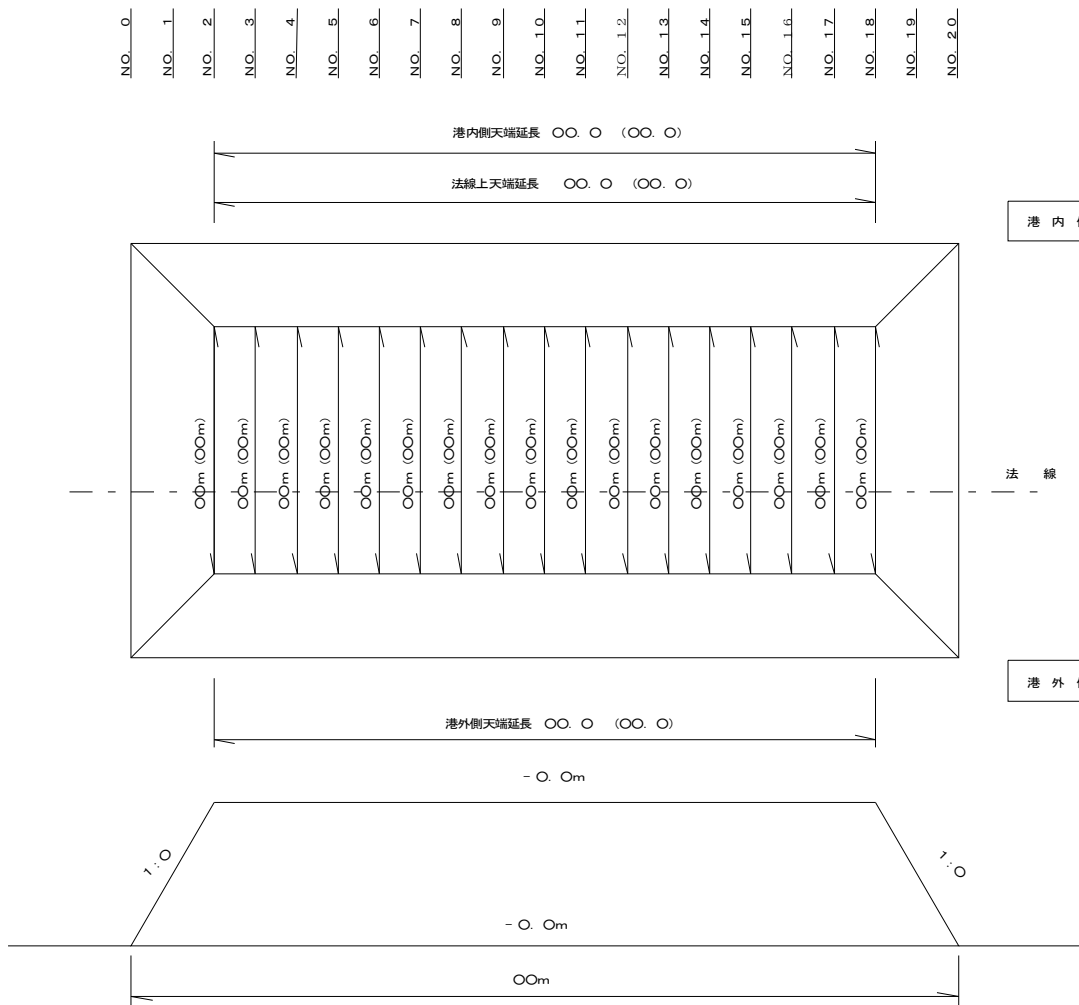
[illegible]

工事名: _____

敷砂出来形管理図

様式・出来形 1-2-2 (2)

敷砂 平面図



サンドコンパクションパイル出来形管理表

令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

杭番号		1			2			3			4			5		
杭列	杭番号	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
A列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
	差															

杭番号		1			2			3			4			5		
杭列	杭番号	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
B列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
	差															

杭番号		1			2			3			4			5		
杭列	杭番号	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
○列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
	差															

杭番号		1			2			3			4			5		
杭列	杭番号	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長	天端高	先端深度	杭長
○列杭	設計値															
	測定値															
	差															
		変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量	変位量X	変位量Y	偏芯量
	設計値															
	測定値															
	差															

砂投入管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者)

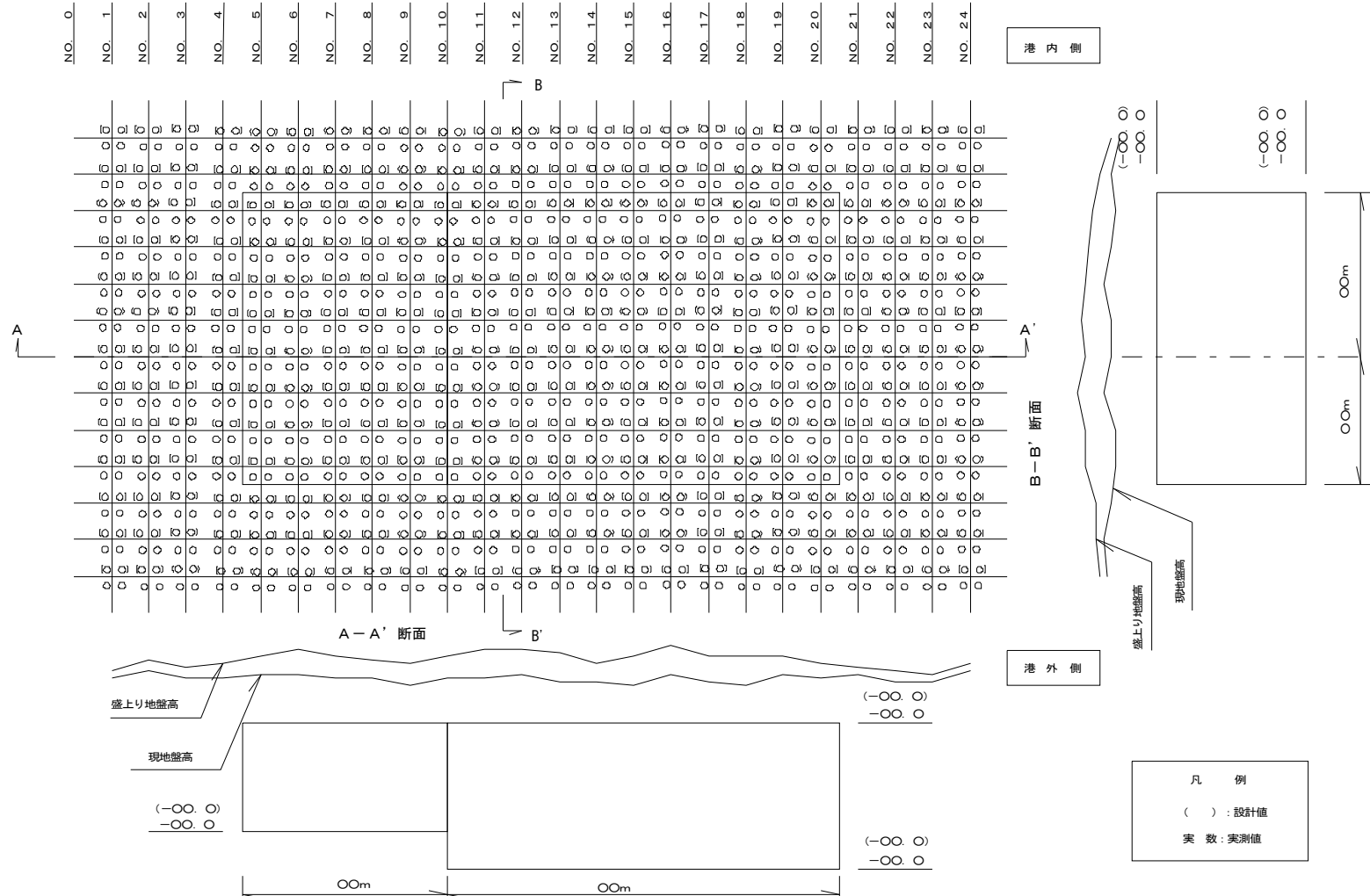
[illegible]

工事名： _____

締固工 深浅図

様式・出来形 1-3-2(3)

平 面 図



深層混合処理杭出来形管理表

様式・出来形1-4-1(1)

令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

NO.		打 設 位 置		杭出来形			スラリー量		NO.		打 設 位 置		杭出来形			スラリー量	
		X方向	Y方向	天端高	先端深度	改良長	総吐出量	1m当り			X方向	Y方向	天端高	先端深度	改良長	総吐出量	1m当り
	設計値																
	実測値																
	差																

工事名: _____

主任技術者(監理技術者)

[illegible]

洗掘防止マット出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

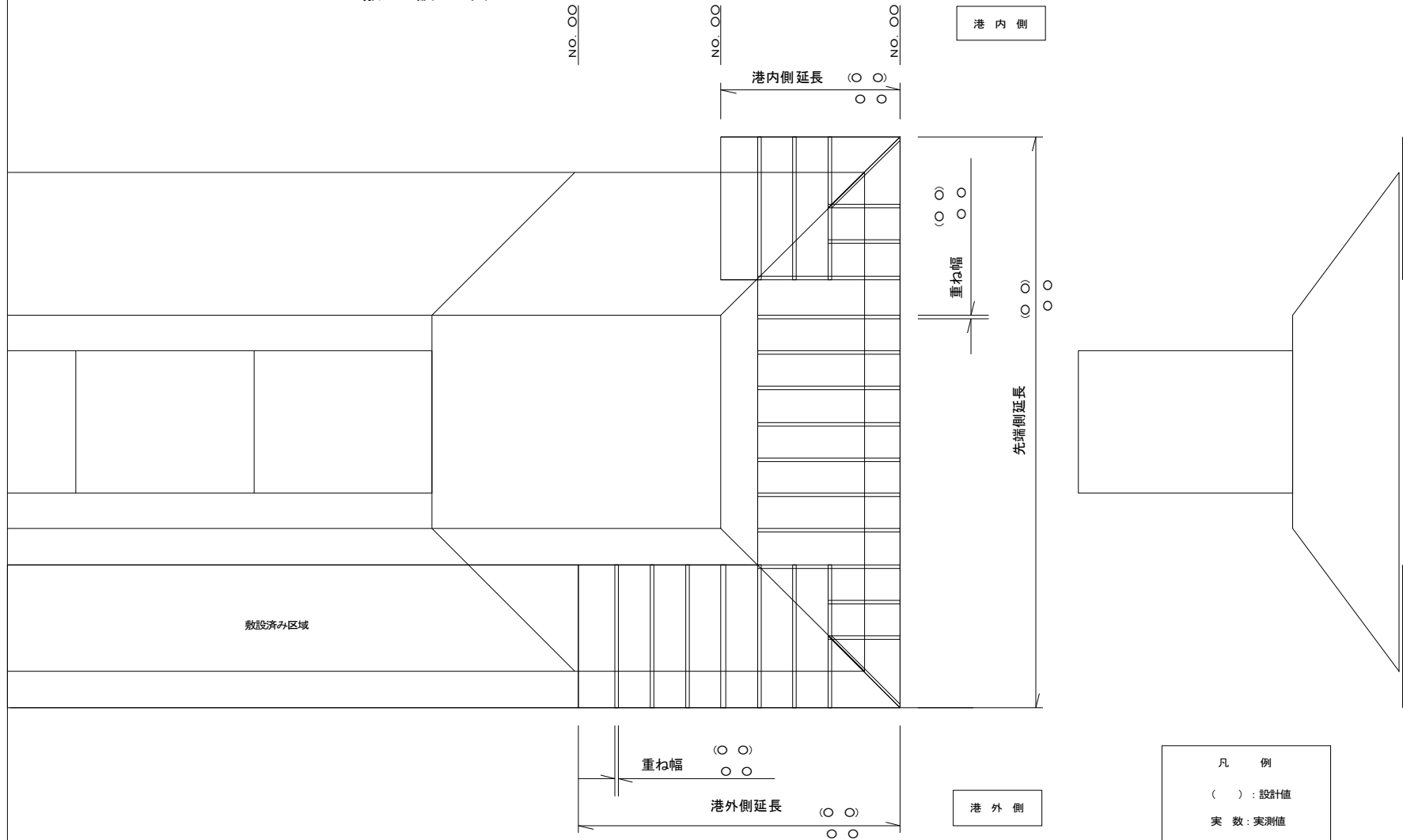
マットNO.	敷 設 月 日	測 定 値				備 考
		敷設位置	重ね幅	敷設幅	延 長	
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					
	設計値					
	実測値					
	差					

工事名： _____

様式・出来形 1-5-1 (2)

洗掘防止マット出来形管理図

敷 設 図



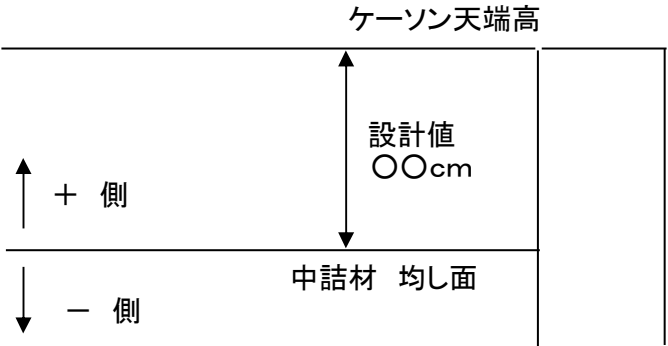
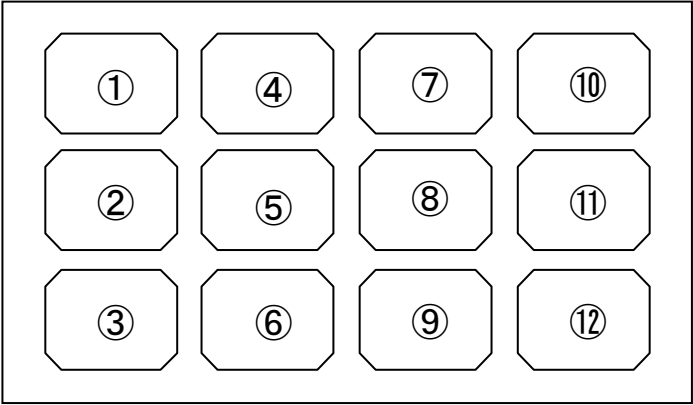
砂・石材中詰出来形管理表

令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定位置	ケーソン天端からの値			測定位置	ケーソン天端からの値		
	実測値	設計値	差		実測値	設計値	差
①							
②							
③							
④							



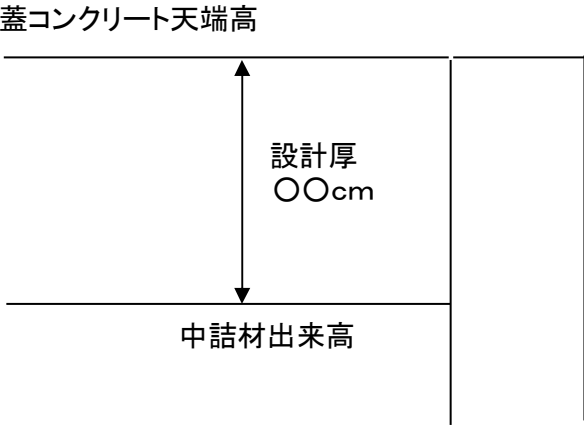
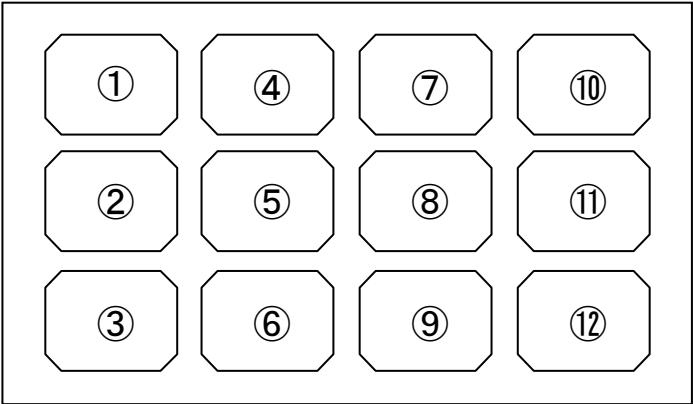
蓋コンクリート出来形管理表

令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定位置	ケーソン天端からの値			測定位置	ケーソン天端からの値		
	実測値	設計値	差		実測値	設計値	差
①							
②							
③							
④							



腹起出来形管理表

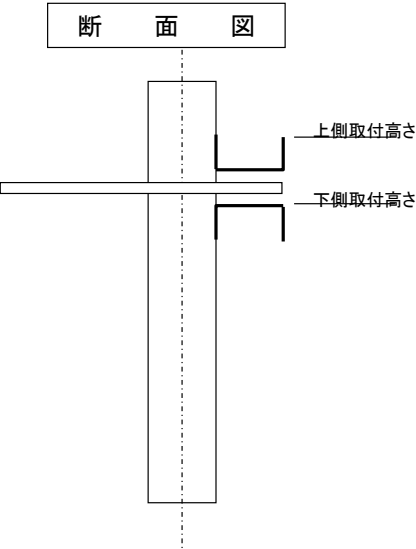
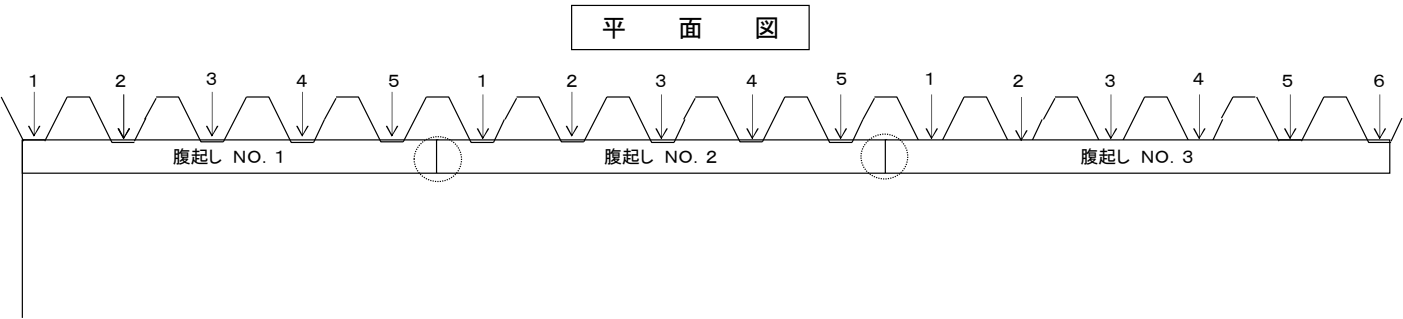
様式・出来形1-10-5

令和 年 月 日

主任技術者(監理技術者)

測 点 \ 種 別			取付高さ		取付長さ	継手の状況
			上側	下側		
NO. 1	始点側	設計値				
		測定値				
		差				
	終点側	設計値				
		測定値				
		差				
NO. 2	始点側	設計値				
		測定値				
		差				
	終点側	設計値				
		測定値				
		差				
NO. 3	始点側	設計値				
		測定値				
		差				
	終点側	設計値				
		測定値				
		差				

位 置		ボルトの取付状況	矢板との密着状況	備 考
腹起し NO	ボルト NO			
NO. 1	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
NO. 2	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
NO. 3	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			



工事名: _____

主任技術者(監理技術者)

陸側控矢板(杭)部

[illegible]

鋼杭打込記録

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

打 設 年 月 日				標高	50cmごとの打撃	累計打撃回数	50cmごとの平均	リバウンド量	ラム落下高	摘 要
杭 番 号										
外 径				(m)	(回)	(回)	(cm)	(cm)	(m)	
杭 長										
板 厚										
メーカー										
打込み時間										
杭打機 名称										
型 式										
全 重 量										
ラ ム 重 量										
打止管理		設計値	実測値							
	天端高(m)									
	先端深度(m)									
	地盤高(m)									
	根入長(m)									
	総打撃回数									
	最終貫入量(S)									
許容 支 持力	リバウンド量(K)									
	設計値	実測値								
許容 支 持力 算定 式	$Ru = \frac{ef \times 2WH}{S + 1/2K}$ ef:ハンマーの効率=0.5 H:ハンマーの落下高(m) W:ハンマーの重量(kN)									

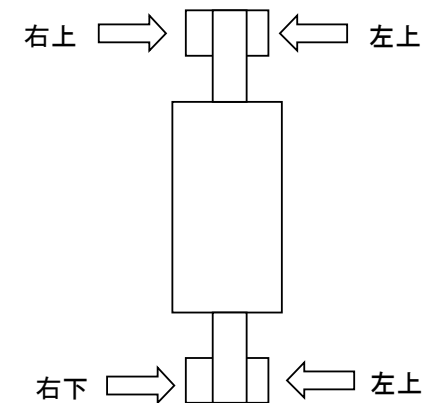
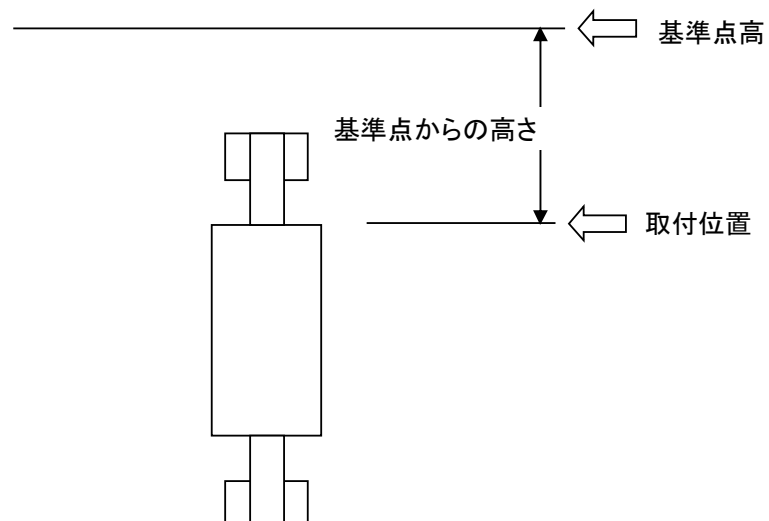
主任技術者(監理技術者)

工事名: _____

[illegible]

主任技術者(監理技術者)

工事名: _____

[illegible]

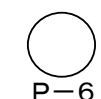
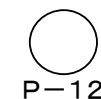
様式・出来形1-13-1(2)

令和 年 月 日

電気防食電位測定管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者)

[illegible]

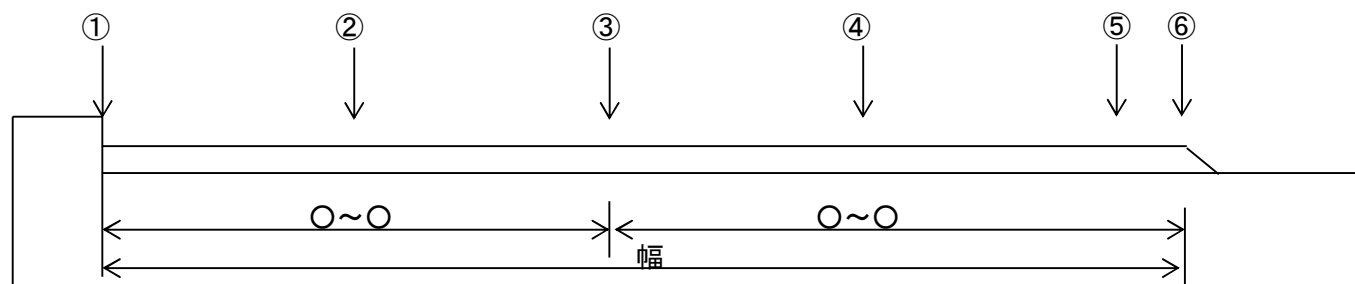
路盤出来形管理表

令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

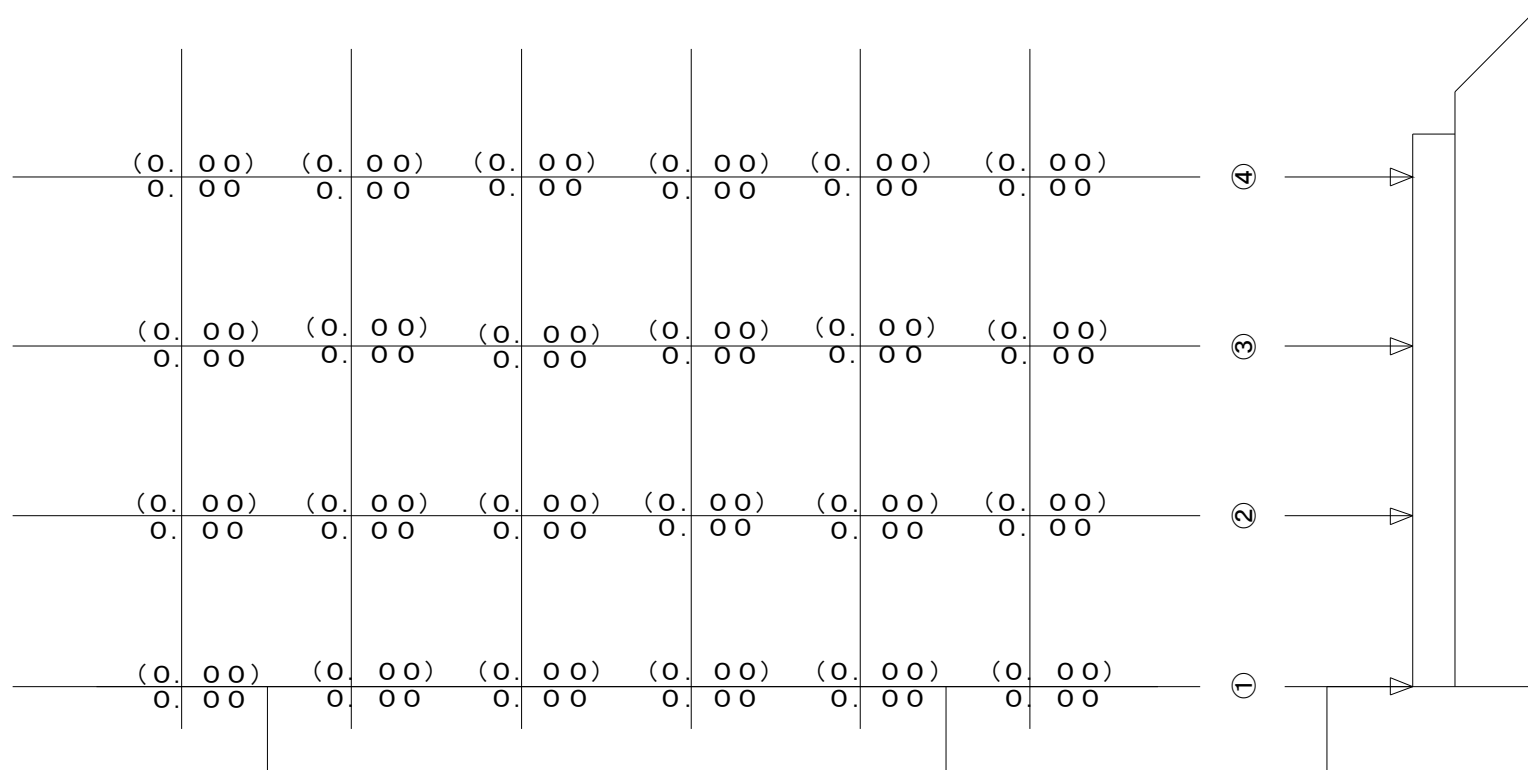
測 点	種 別	高 さ							幅			延 長		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	○~○	○~○	○~○	①線上	法線上	○線上
	路盤設計厚	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m
NO. 〇〇	路床高													
	路盤高													
	厚さ													
NO. 〇〇														
NO. 〇〇 + 〇. 〇 〇														
NO. 〇〇														



工事名： _____

路盤出来形管理図

様式・出来形 1-14-1(2)



凡 例
() : 設計値
実 数 : 実測値

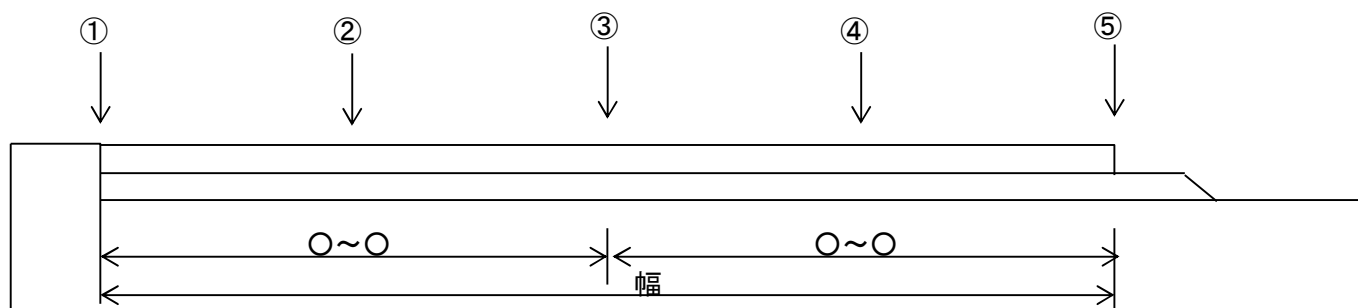
舗装出来形管理表

平成 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

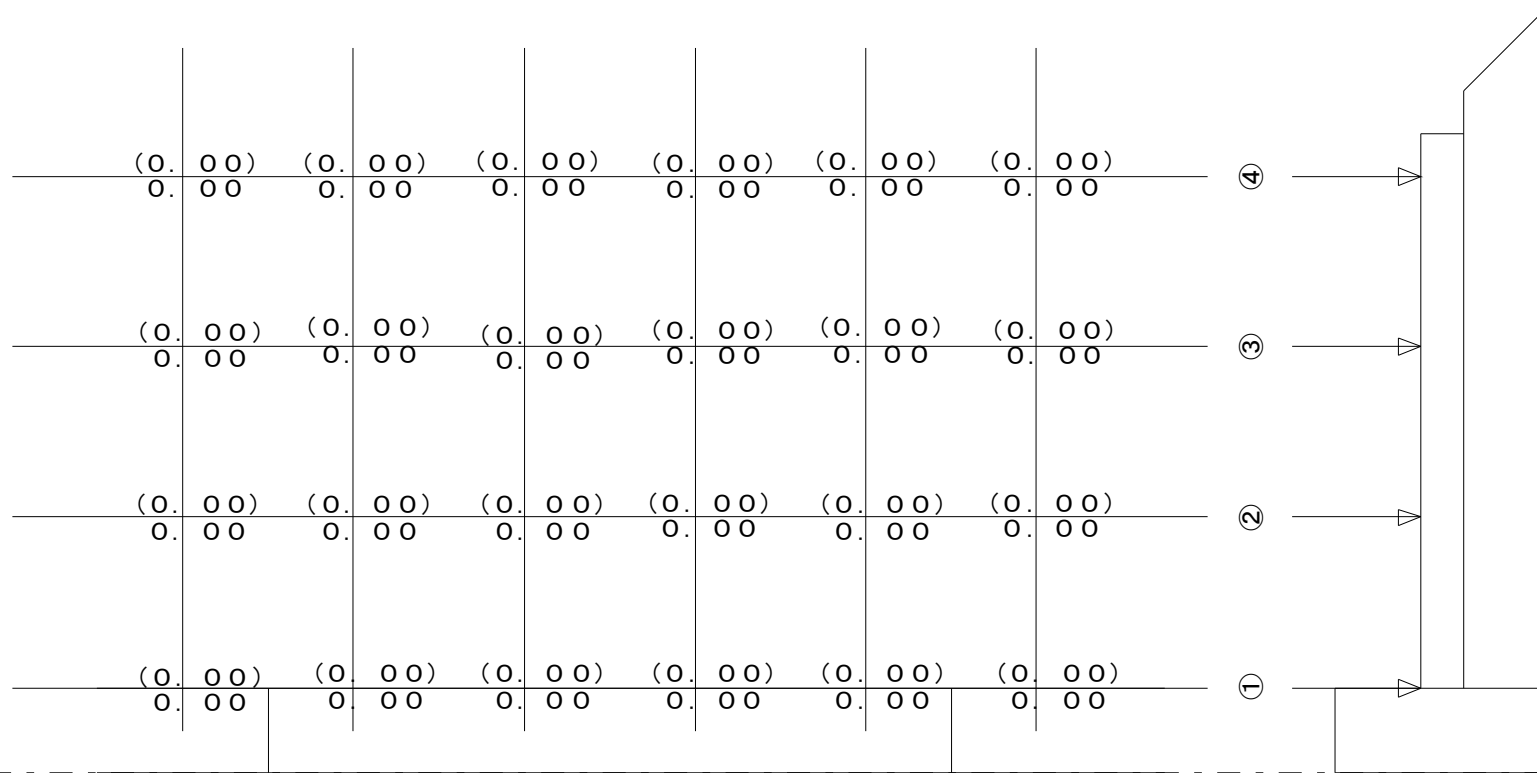
測 点	種 別	高 さ							幅			延 長		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	○～○	○～○	○～○	①線上	法線上	○線上
	舗装設計厚	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m	〇. 〇〇m
NO. 〇〇	路盤高													
	天端高													
	厚さ													
NO. 〇〇														
NO. 〇〇 +〇. 〇 〇														
NO. 〇〇														



工事名： _____

舗装出来形管理図

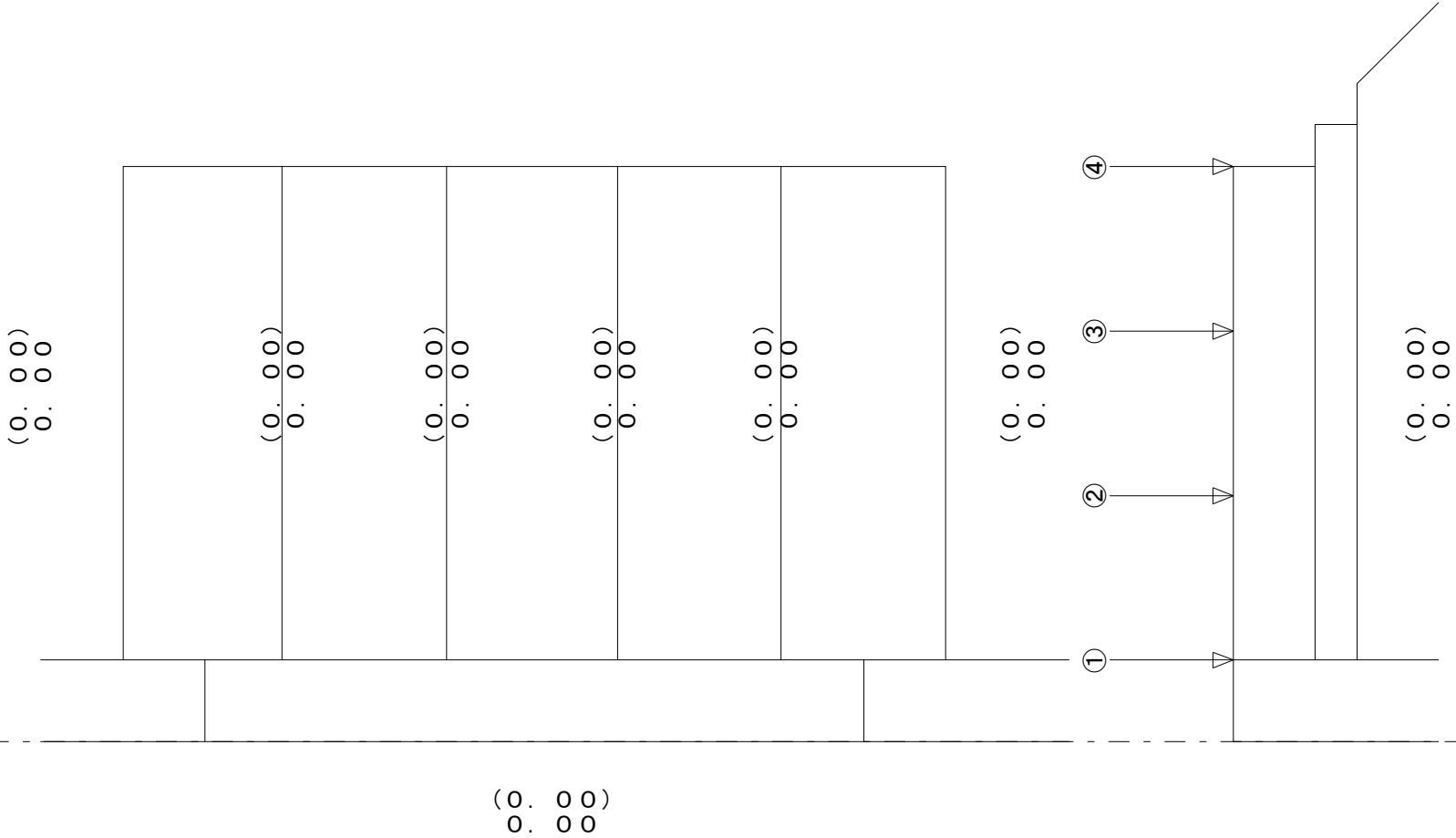
様式・出来形 1—15—3(2)



凡 例
() : 設計値
実 数 : 実測値

工事件名：平成〇〇年度 〇〇港〇〇地区岸壁 (〇) 〇〇工事

舗装出来形管理図

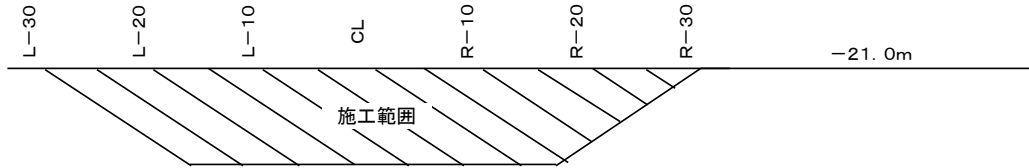


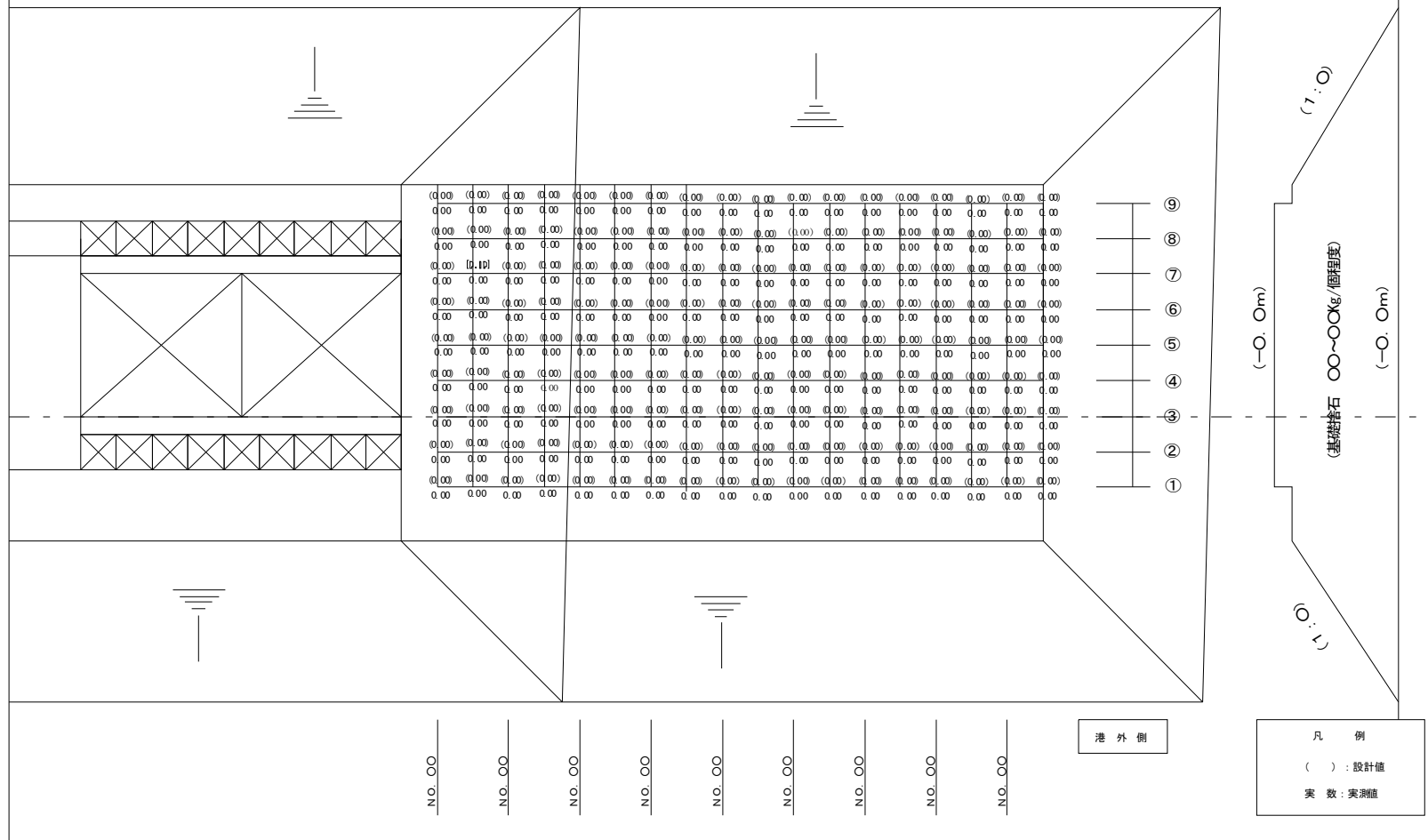
置換材出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測点		種別	天 端 高						天 端 幅		延 長		
			L-30m	L-20m	L-10m	CL	R-10m	R-20m	R-30m	港外側	港内側	港外側	法線上
NO. 〇〇	設計値										NO. 〇〇 }	NO. 〇〇 }	NO. 〇〇 }
	測定値												
	差												
NO. 〇〇+〇. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇+〇. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値										〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m
	測定値												
	差												
NO. 〇〇+〇. 〇〇	設計値										〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m	〇〇. 〇〇m
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値												
	測定値												
	差												
NO. 〇〇	設計値										}	}	}
	測定値												
	差												





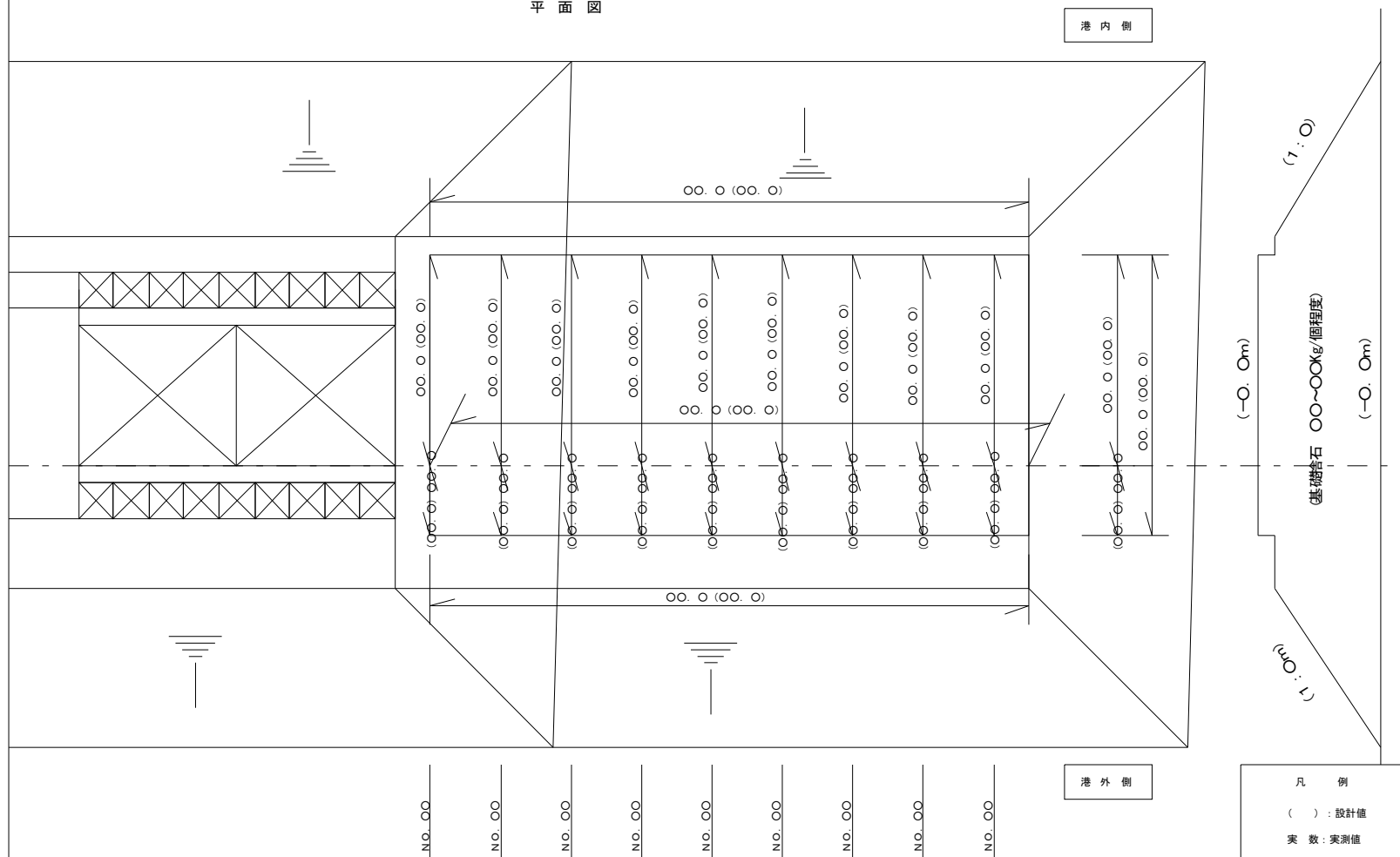
工事名:

基礎石均し出来形管理図 (2)

様式・出来形 4-3-2 (2)

平面图

港 内 側



港 外 側

凡 例

() : 設計値

実数：実測値

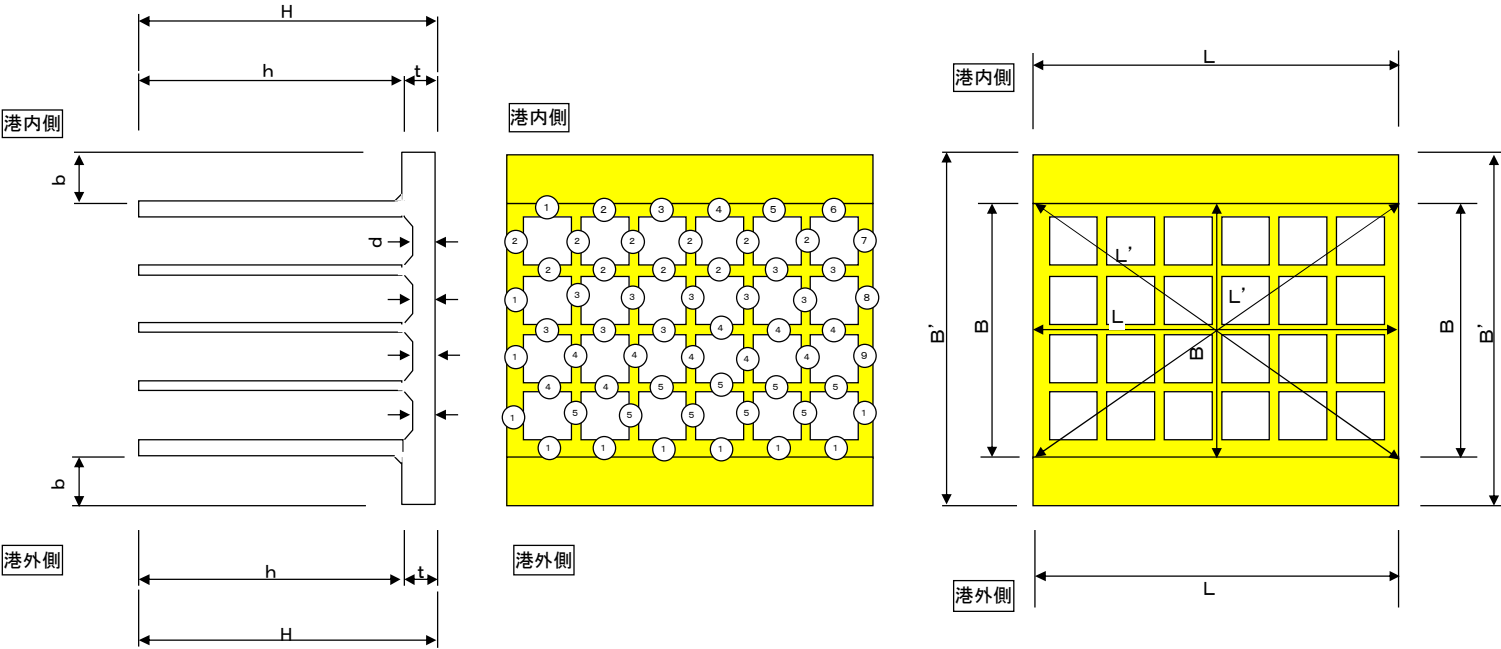
ケーソン製作出来形管理表

様式・出来形 5-1-1
令和 年 月 日

工事名： _____

主任技術者（監理技術者） _____

〇〇区用 〇〇号函 〇〇段目													
測定項目	規 格	箇 所	測定値	検査値	差	箇 所	測定値	検査値	差	箇 所	測定値	検査値	差
<壁 厚> 側壁=〇〇 隔壁=〇〇	±〇〇												
<フチツグ> B'=〇〇 L=〇〇 b=〇〇 t=〇〇	+〇〇 -〇〇												
<底版厚> d=〇〇	+〇〇 -〇〇												
<延 長> L=〇〇	+〇〇 -〇〇												
< 幅 > B=〇〇	+〇〇 -〇〇												
<対 角> L'=〇〇	±〇〇												
<高 さ> H=〇〇	+〇〇 -〇〇												



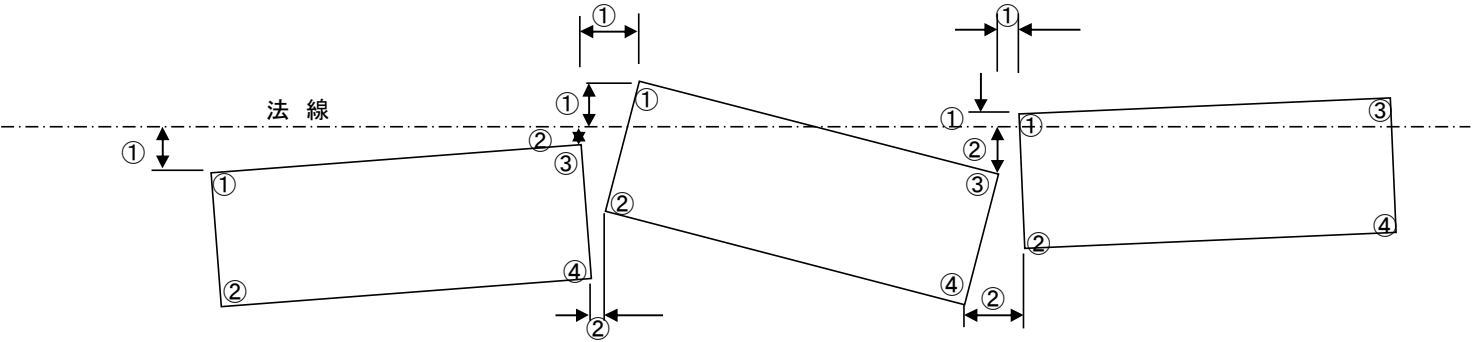
ケーソン据付出来形管理表

令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

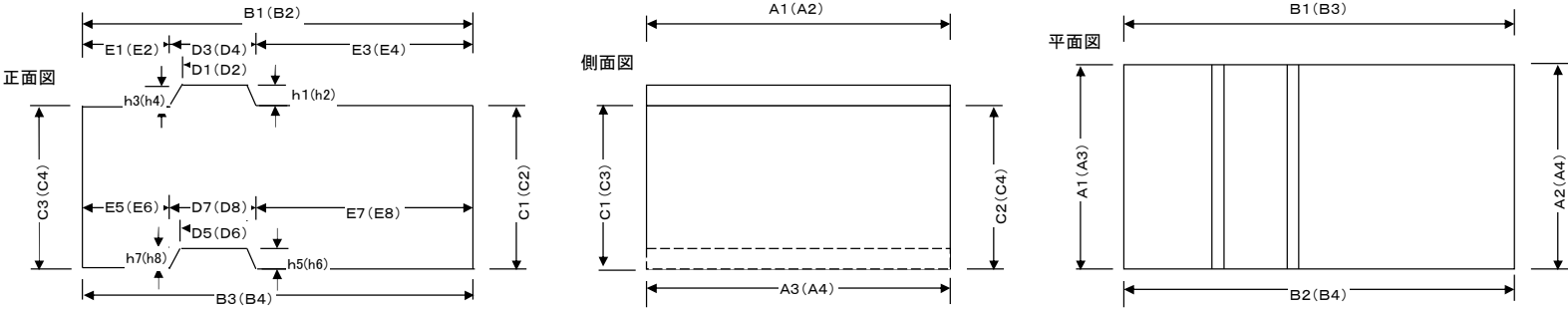
ケーソン 番号	法線に対する出入り					据付目地間隔					天 端 高 さ				
	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差	測定位置	測定月日	設計値	実測値	差
NO. 1						—					①				
											②				
											③				
											④				
						—									



様式・出来形6-1(1)

工事名: _____

主任技術者(監理技術者)

[illegible]

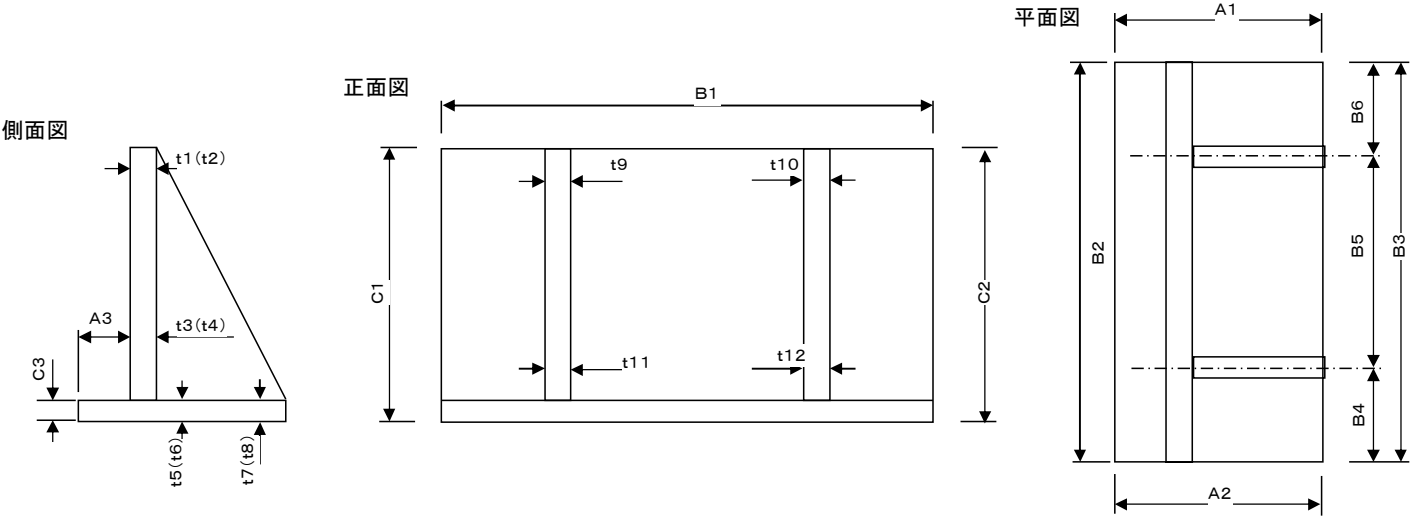
L型ブロック製作出来形管理表

様式・出来形6-1(2)
令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

製作番号	幅			長さ						高さ			各 部 材 厚 さ											
	A1	A2	A3	B1	B2	B3	B4	B5	B6	C1	C2	C3	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	t9	t10	t11	t12
	設計値																							
	実測値																							
	差																							



セルラーブロック製作出来形管理表

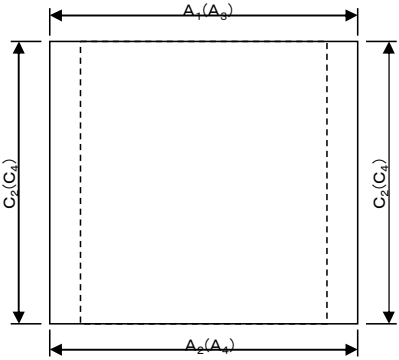
様式・出来形6-1(3)
令和 年 月 日

工事名: _____

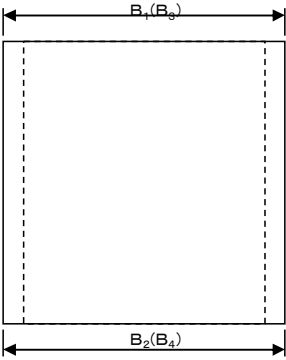
主任技術者(監理技術者) _____

製作番号		幅				長さ				高さ				各 部 材 厚 さ								対角線	
		A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	t1	t2	t3	t4	t5	t6	t7	t8	ℓ1	ℓ2
	設計値																						
	実測値																						
	差																						

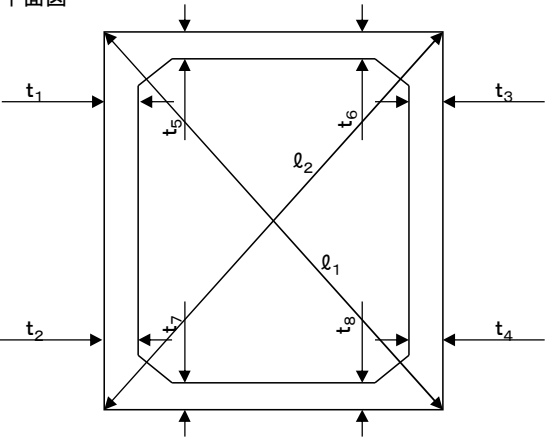
側面図



正面図



平面図



ブロック製作等 外見チェックリスト

様式・出来形6-1(4)
令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

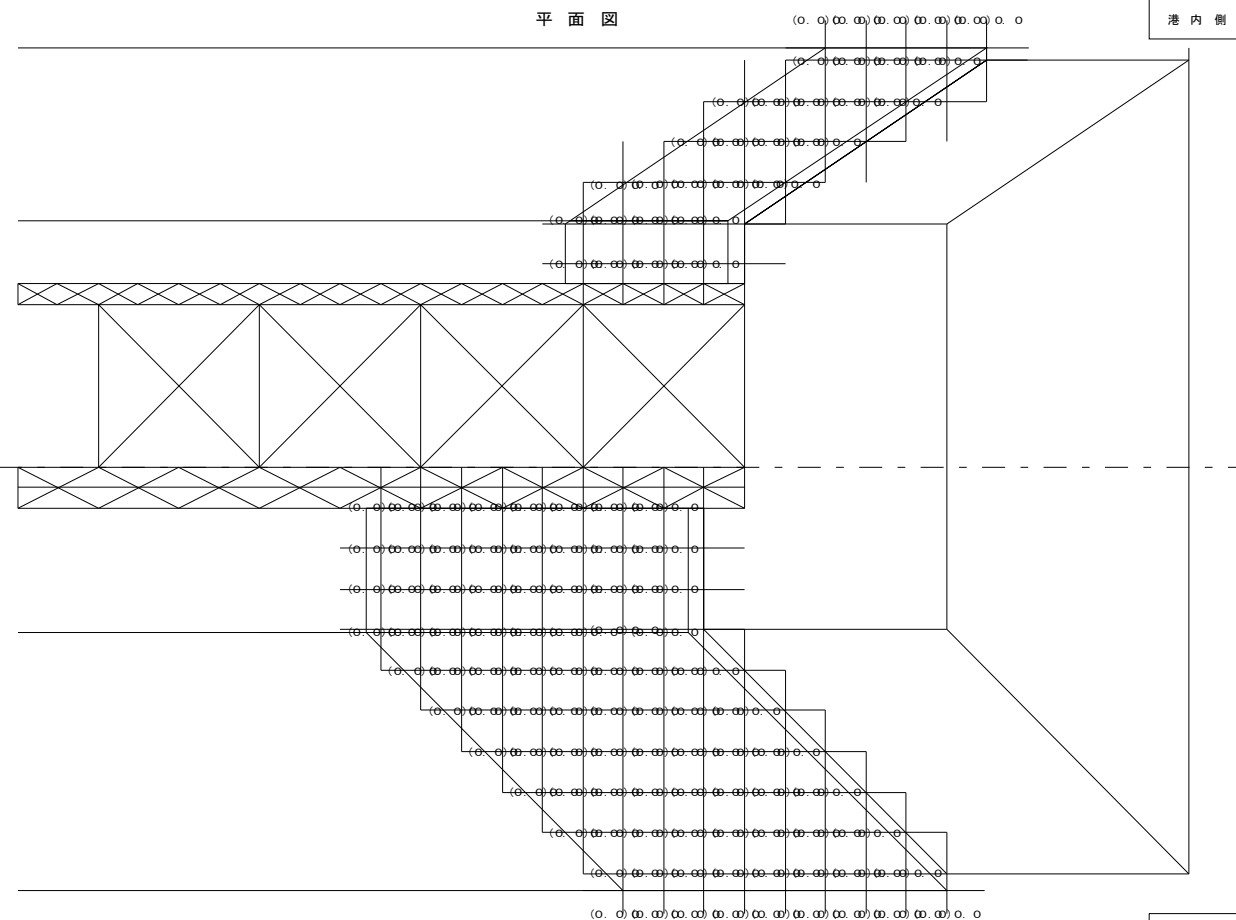
チ エ ッ ク 項 目	
製作番号(ブロックNO)	
製作日	
検査日	
大きな気泡はないか	
ひびわれはないか	
ジャンカはないか	
ワイヤー傷はないか	
ブロックのカケはないか	
泥などの付着はないか	
ナンバリングに誤記はないか	
その他	
総 評	
略 図	

工事名: _____

様式・出来形 1.3-1-1 (1)

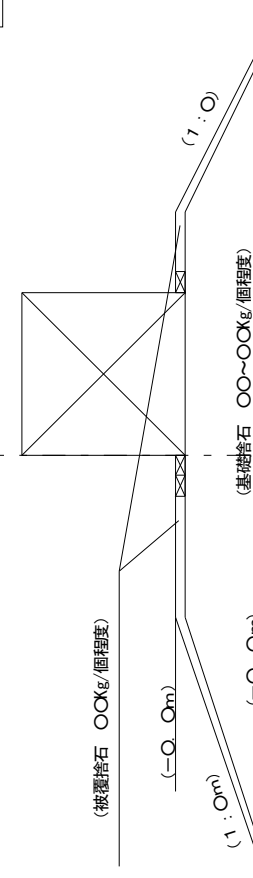
被覆石均し出来形管理図 (1)

平面図



港内側

港外側



(被覆石 00kg/個程度)

(-0.0m)

(1:0m)

(基礎石 00~00kg/個程度)

(-0.0m)

凡例
() : 設計値
実数 : 実測値

工事名: _____

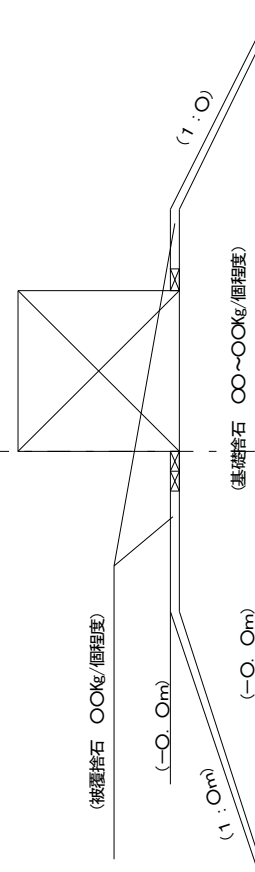
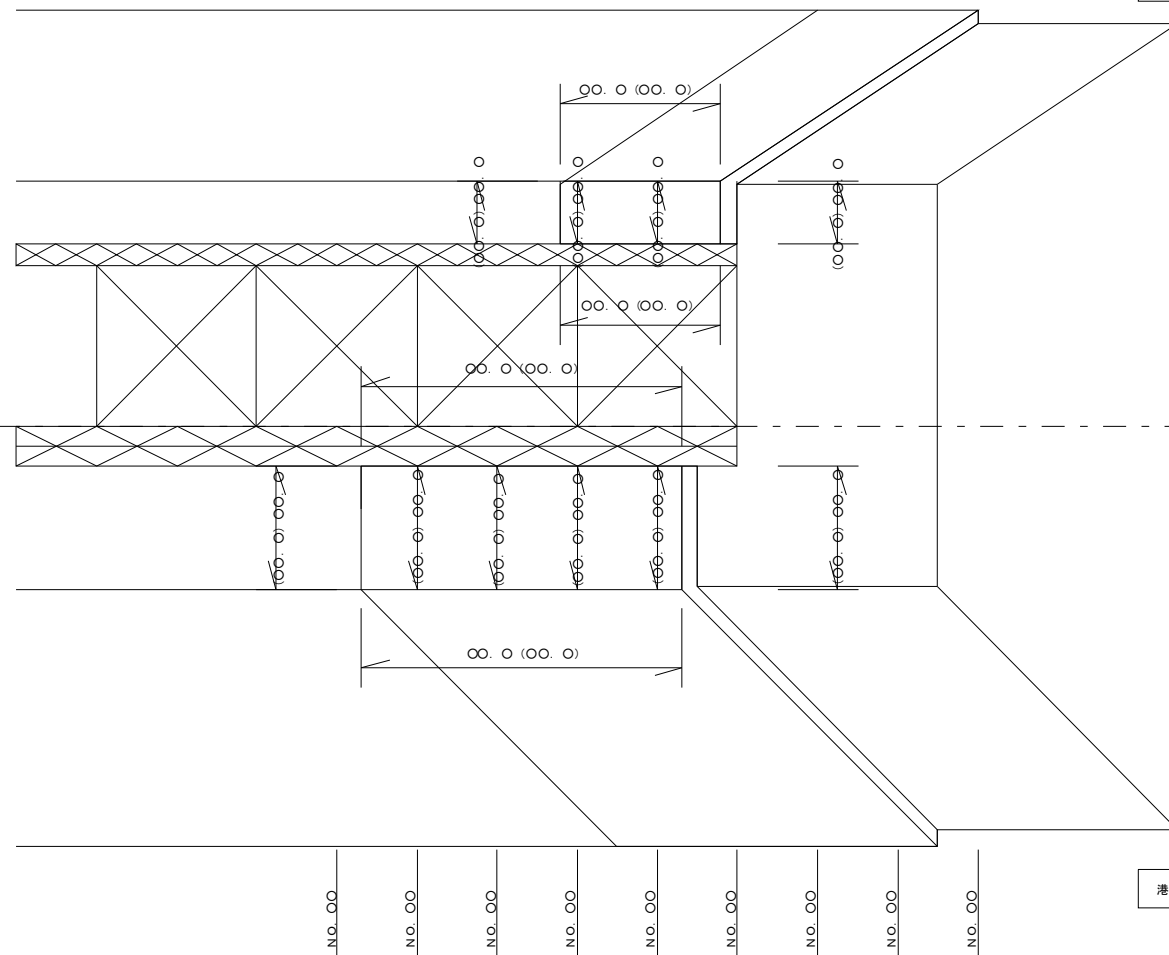
様式・出来形 13-1-1(2)

被覆石均し出来形管理図 (2)

平面図

港内側

港外側



(被覆捨石 00kg/個程度)

(-0.0m)

(1:0m)

(基礎捨石 00~00kg/個程度)

(1:0)

凡例
(): 設計値
実数: 実測値

根固ブロック製作出来形管理表

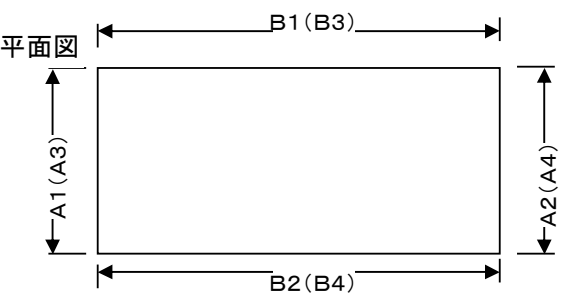
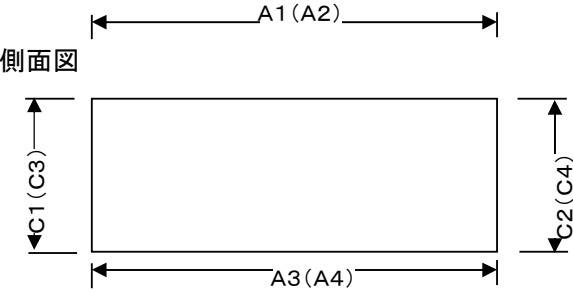
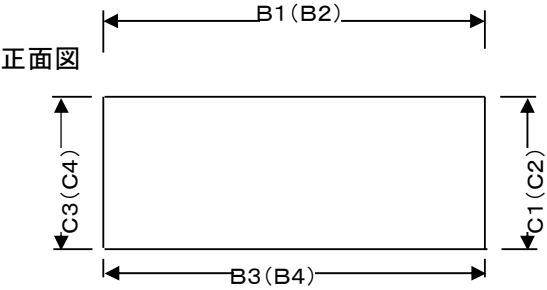
様式・出来型13-3-1

令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

製作番号		長さ				幅				長さ		幅		備考
		上側		下側		上側		下側		右側		左側		
		B1	B2	B3	B4	A1	A2	A3	A4	C1	C2	C3	C4	
	設計値													
	実測値													
	差													

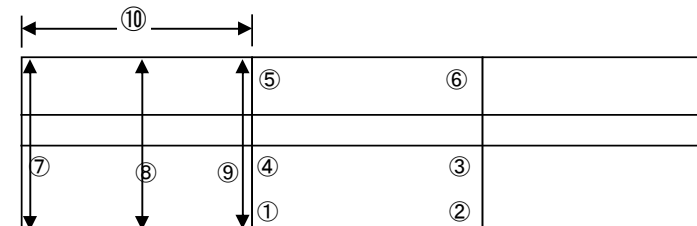


上部コンクリート(防波堤)出来形管理表

工事名: _____

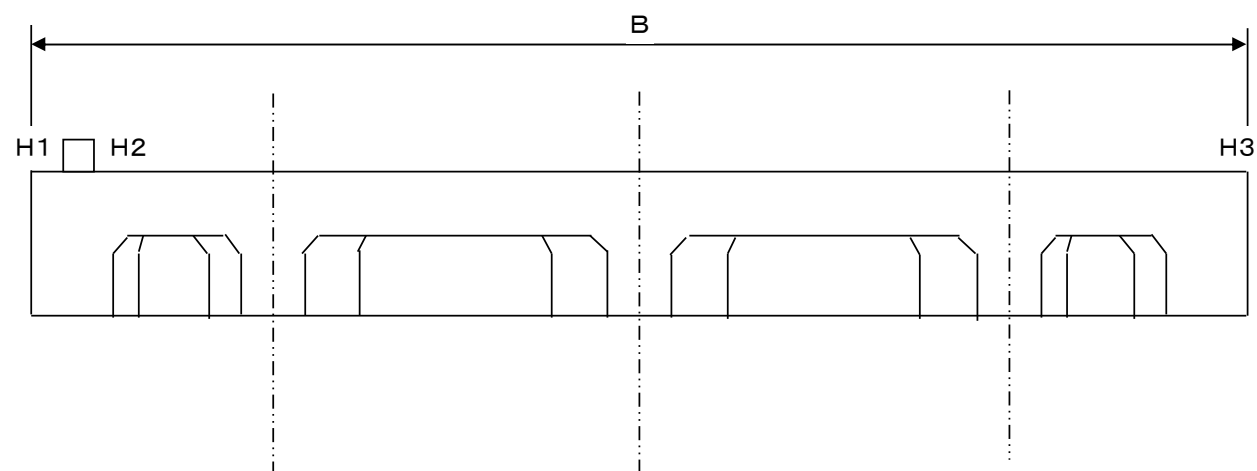
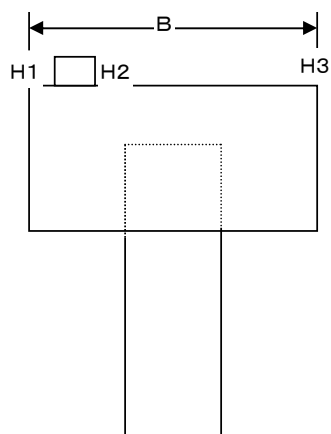
主任技術者(監理技術者) _____

ケーソン 等 NO.	測定月日	天 端 高 (厚 さ)				天 端 幅				延 長				法線に対する出入り			
		測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差	測点	設計値	測定値	差
		①				⑦				⑩							
		②				⑧											
		③				⑨											
		④															
		⑤															
		⑥															



工事名: _____

主任技術者(監理技術者)

[illegible]

防舷材出来形管理表

様式・出来形15-2-1

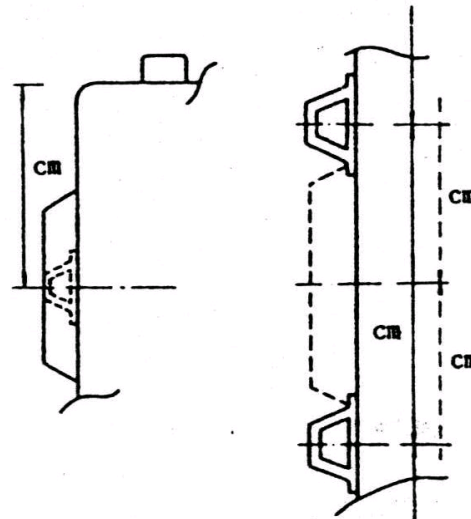
令和 年 月 日

工事名: _____

主任技術者(監理技術者)

[illegible]

防舷材測定位置図



令和 年 月 日

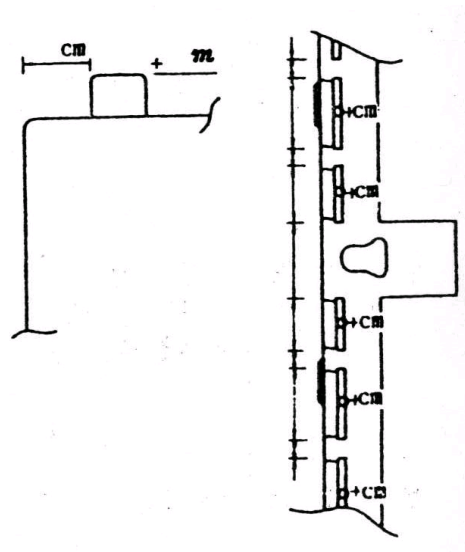
車止出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者)

[illegible]

車止測定位置図

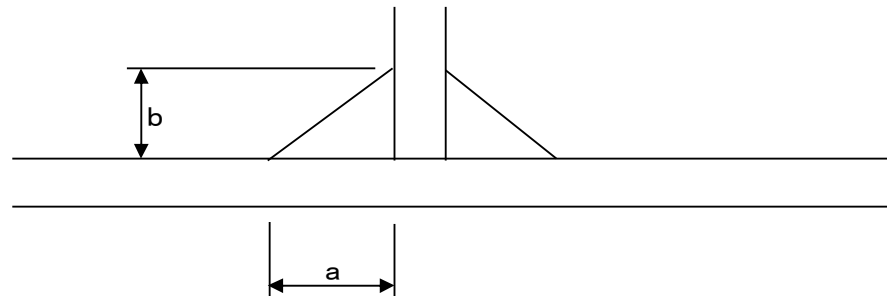


すみ肉溶接出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定箇所		溶接脚長		溶接長	測定箇所		溶接脚長		溶接長
		a	b				a	b	
	設計値					設計値			
	実測値					実測値			
	差					差			

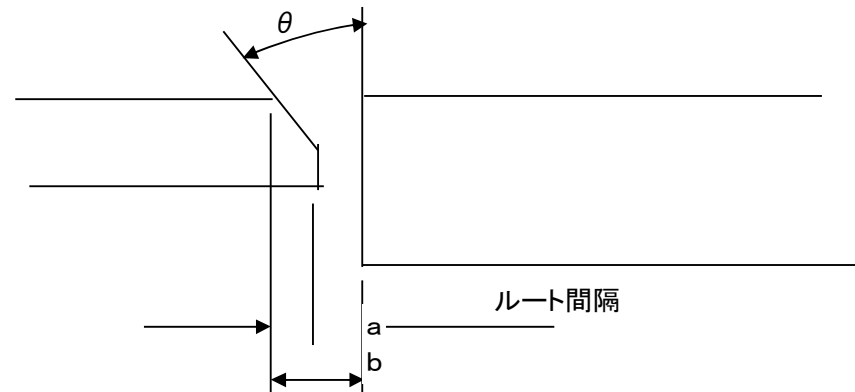


突合わせ溶接出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定箇所		溶 接 脚 長			溶 接 長	測定箇所		溶 接 脚 長			溶 接 長
		A	B	θ				A	B	θ	
	設計値						設計値				
	実測値						実測値				
	差						差				

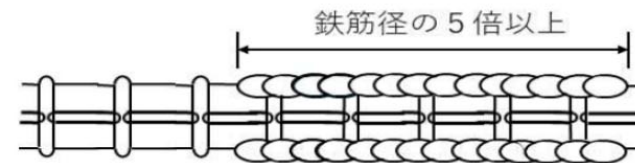
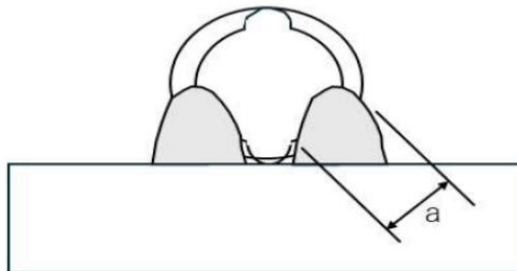


鉄筋フレア溶接出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測定箇所		鉄筋径 D	のど厚 a	溶 接 長	測定箇所		鉄筋径 D	のど厚 a	溶 接 長
	設計値					設計値			
	実測値					実測値			
	差					差			

有効のど厚 $a = \text{鉄筋径 } D / 4$ 

浚渫出来形管理表

工事名: _____

主任技術者(監理技術者) _____

測点NO. 距離NO.		NO. 〇〇	NO. 〇〇 +〇. 〇m	NO. 〇〇	NO. 〇〇 +〇. 〇m	NO. 〇〇	NO. 〇〇 +〇. 〇m	NO. 〇〇	NO. 〇〇	NO. 〇〇	NO. 〇〇	NO. 〇〇	NO. 〇〇	NO. 〇〇
+〇〇. 〇m	設計値	15.20												
	測定値	15.30												
	差	-0.10												
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													
+〇〇. 〇m	設計値													
	測定値													
	差													

工事名 : _____

様式・出来形 25-1(2)

浚渫出来形管理図

